

南三陸町総合計画策定に関する  
まちづくり住民意向調査  
調査結果報告書

平成18年8月

南三陸町

## 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 調査結果報告書の見方.....	1
<b>II. 回答者の属性</b> .....	2
1. 性別.....	2
2. 年齢.....	2
3. 職業.....	3
4. 居住歴.....	4
5. 居住意向.....	5
6. 居住地域.....	5
<b>III. 調査結果</b> .....	6
1. 今後の南三陸町のまちづくりにおける取組の重要度.....	6
【全体】	
(1) 多様な主体の連携と協働によるまちづくり.....	6
(2) 安全で快適に暮らせるまちづくり.....	7
(3) 地域資源の活用と交流によるまちづくり.....	8
(4) 安心して健やかに暮らせるまちづくり.....	10
(5) 豊かな自然と共生するまちづくり.....	12
(6) 交流と地域文化が人を育むまちづくり.....	14
【地区別】	
○各地区の傾向・特徴点（今後のまちづくりにおける取組の重要度から）.....	16
(2) 志津川地区.....	18
(3) 戸倉地区.....	20
(4) 入谷地区.....	22
(5) 歌津地区.....	24
2. 新町建設計画におけるまちづくりの方向（目標）について.....	26
3. 今後の土地利用や開発のあり方について.....	29
4. 南三陸町の今後の本庁舎整備の考え方について.....	32
5. パソコンの所有状況について.....	36
6. インターネットの利用状況について.....	37
7. 将来の光ファイバ回線の利用について.....	38
8. 行政情報の入手方法について.....	38
9. 南三陸町のホームページ・携帯サイトの利用について.....	40
10. 南三陸町のホームページでの情報の充実などについて.....	41
11. 地域情報化推進に際しての重点事項などについて.....	43
12. 南三陸町の今後のまちづくりに対する意見等について.....	45
<b>IV. 資料編</b> .....	52
1. アンケート調査票.....	54

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、南三陸町の新しい総合計画を策定するにあたり、町民のみなさまのまちづくりに対する意向などを把握し、その結果を計画策定の基礎資料として活用するために実施しました。

## 2. 調査の方法

- (1) 対 象 者：18 歳以上の町民
- (2) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 標 本 数：2,000 票
- (4) 調査方法：行政区長による配布・郵送による回収
- (5) 調査期間：平成 18 年 5 月 16 日～平成 18 年 5 月 31 日

※集計については、平成 18 年 6 月 15 日到着分までを対象としました。

## 3. 回収結果

地区別の抽出数、回収数及び回収率は次のとおりです。

地区	抽出数 (配布数)	回収数	回収率 (%)
志津川地区	918	476	51.9%
戸倉地区	281	149	53.0%
入谷地区	213	117	54.9%
歌津地区	588	327	55.6%
地区不明	—	3	—
無効票(白票)	—	2	—
合計	2,000	1,074	53.7%

## 4. 調査結果報告書の見方

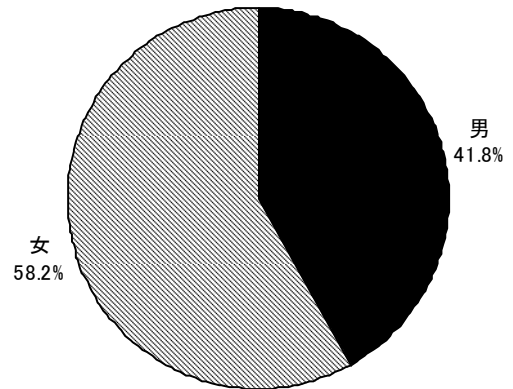
- (1) 調査結果は、各設問の回答合計から無回答を引いた数に対する百分率(%)で表示している場合と、各項目ごとの有効回答数に対する百分率(%)で表示している場合があります。
- (2) 図表における数値の表記は、四捨五入を基本にしています。したがって合計と内訳が一致しない場合があります。
- (3) 複数回答の設問については、その設問の有効回答数に対する回答割合を、選択項目ごとに示しています。
- (4) 図表中に示してある「N」は、当該設問における有効回答数を示しています。

## Ⅱ. 回答者の属性

### 1. 性別

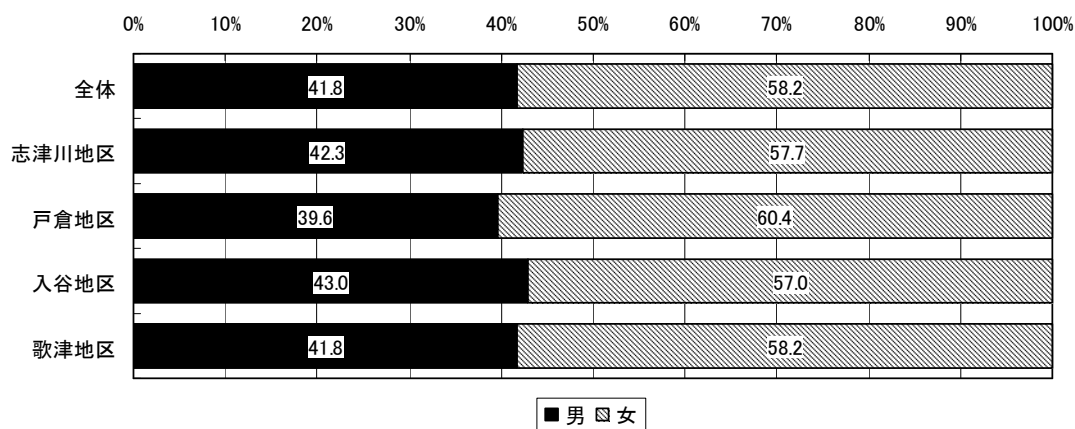
【性別（全体）】

選択項目	回答数	構成比
男	433	41.8%
女	602	58.2%
合計	1035	100.0%



【性別（地区別）】

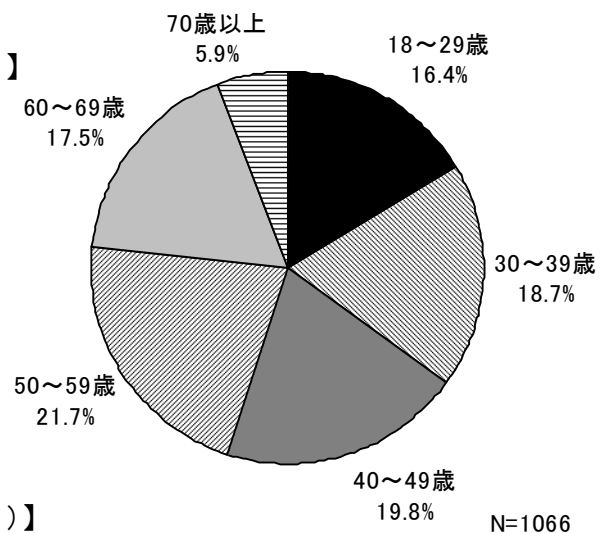
N=1035



### 2. 年齢

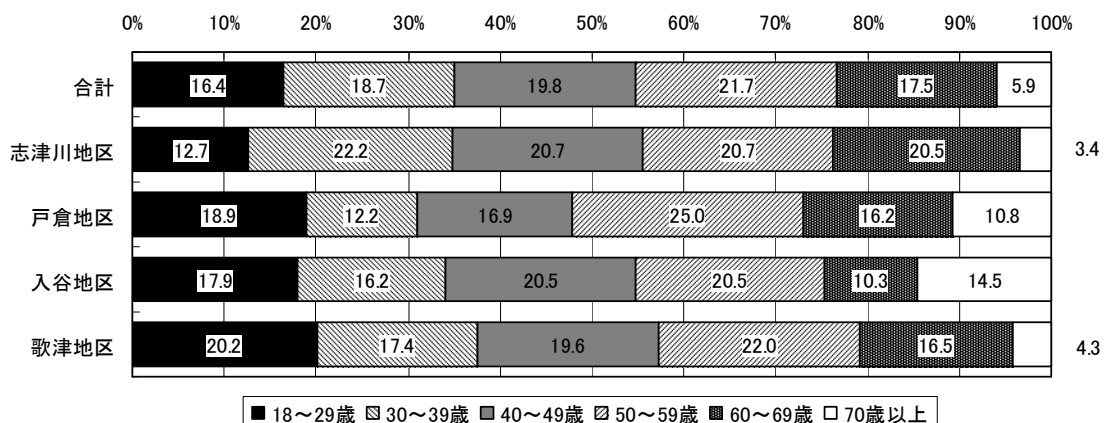
【年齢（全体）】

選択項目	回答数	構成比
18～29歳	175	16.4%
30～39歳	199	18.7%
40～49歳	211	19.8%
50～59歳	231	21.7%
60～69歳	187	17.5%
70歳以上	63	5.9%
合計	1066	100.0%



【年齢（地区別）】

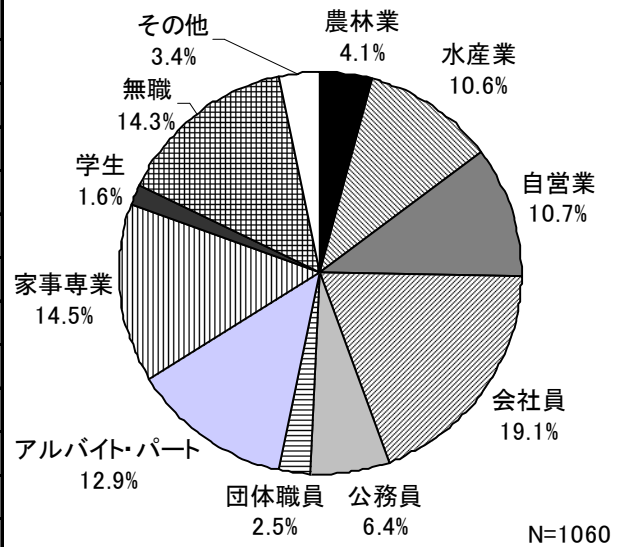
N=1066



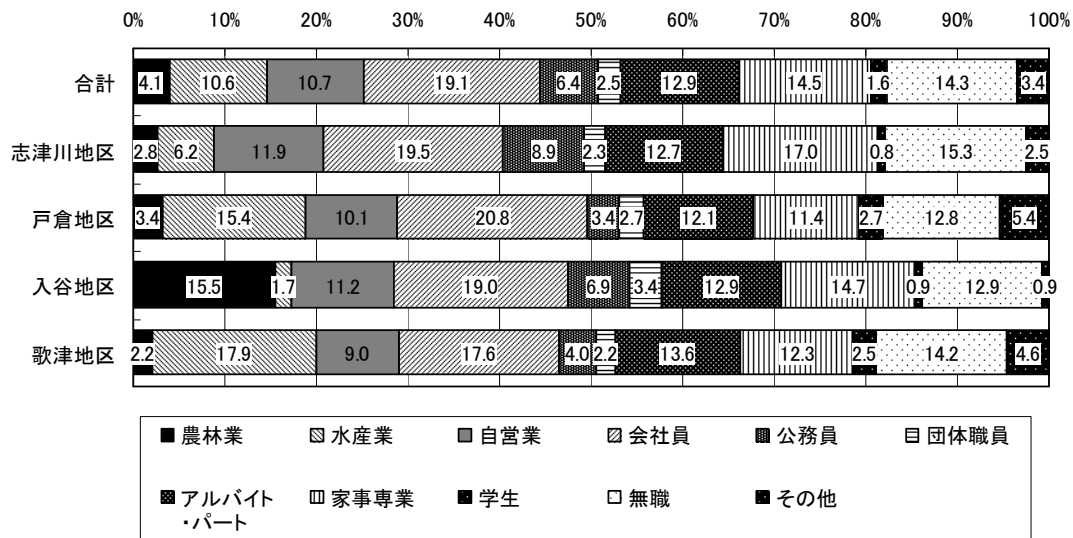
### 3. 職業

【職業（全体）】

選択項目	回答数	構成比
農林業	43	4.1%
水産業	112	10.6%
自営業	113	10.7%
会社員	202	19.1%
公務員	68	6.4%
団体職員	26	2.5%
アルバイト・パート	137	12.9%
家事専業	154	14.5%
学生	17	1.6%
無職	152	14.3%
その他	36	3.4%
合計	1060	100.0%



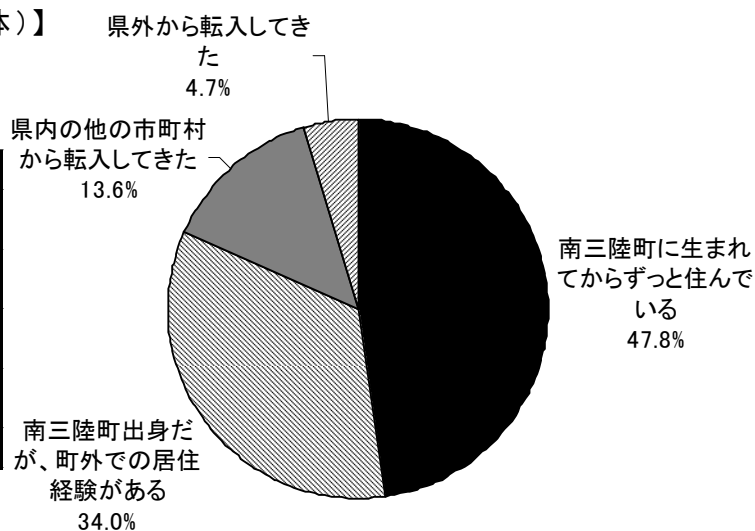
【職業（地区別）】



## 4. 居住歴

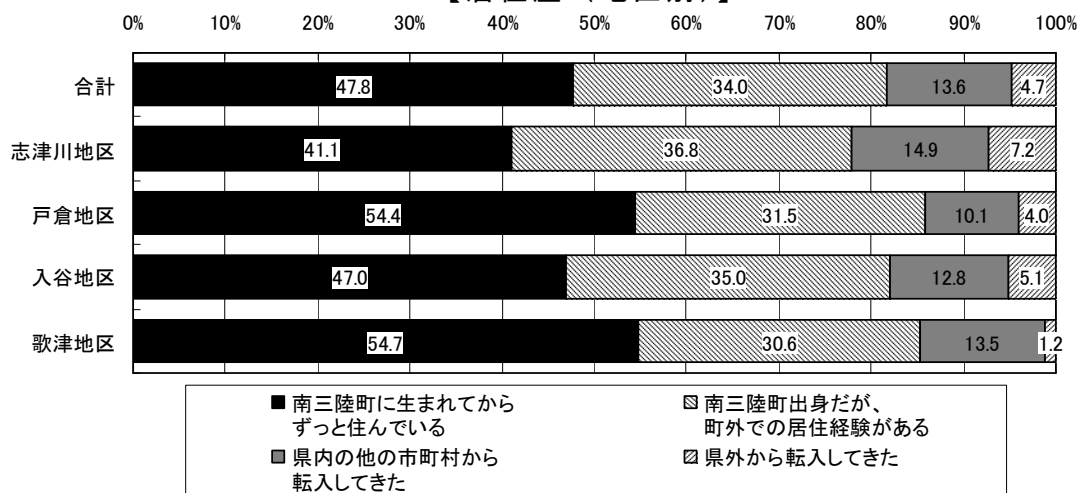
【居住歴（全体）】

選択項目	回答数	構成比
南三陸町に生まれてからずっと住んでいる	510	47.8%
南三陸町出身だが、町外での居住経験がある	363	34.0%
県内の他の市町村から転入してきた	145	13.6%
県外から転入してきた	50	4.7%
合計	1068	100.0%



N=1068

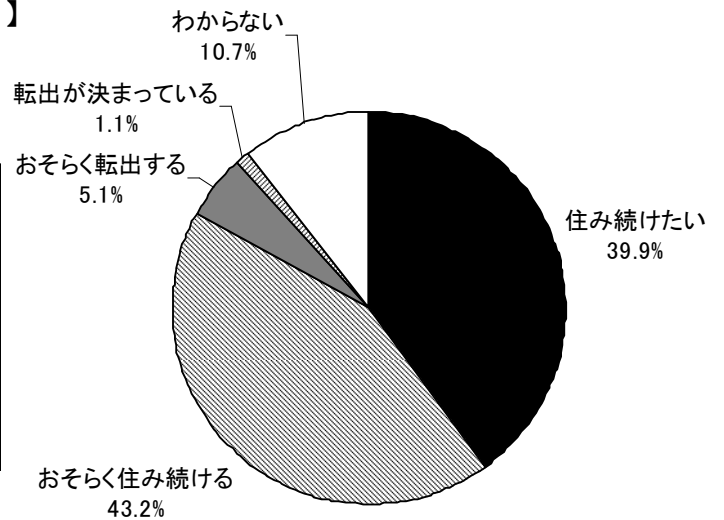
【居住歴（地区別）】



## 5. 居留意向

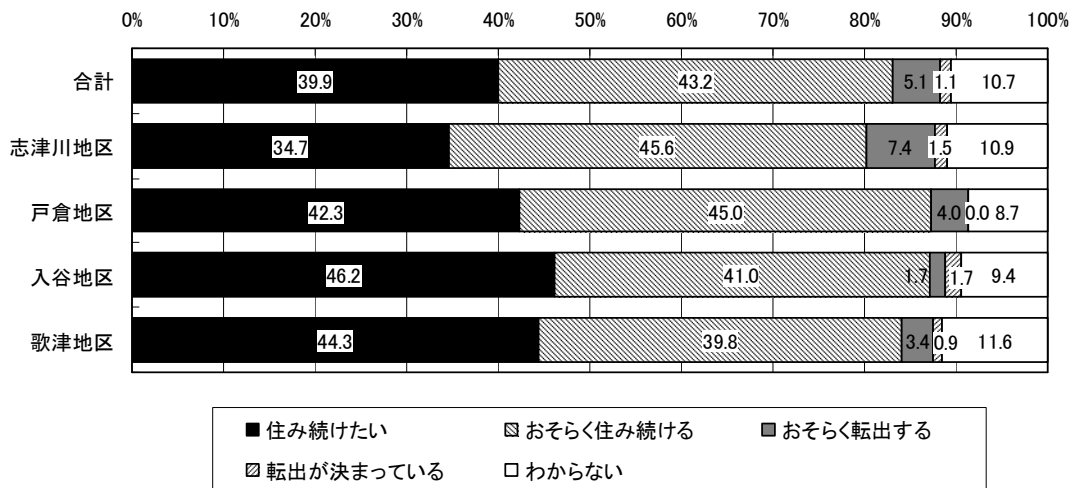
【居留意向（全体）】

選択項目	回答数	構成比
住み続けたい	427	39.9%
おそらく住み続ける	462	43.2%
おそらく転出する	54	5.1%
転出が決まっている	12	1.1%
わからない	114	10.7%
合計	1069	100.0%



N=1069

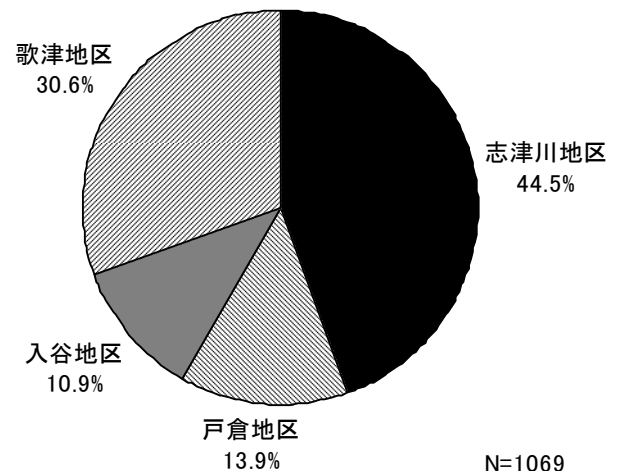
【居留意向（地区別）】



## 6. 居住地域

【居住地域（全体）】

選択項目	回答数	構成比
志津川地区	476	44.5%
戸倉地区	149	13.9%
入谷地区	117	10.9%
歌津地区	327	30.6%
合計	1069	100.0%



N=1069

### Ⅲ. 調査結果

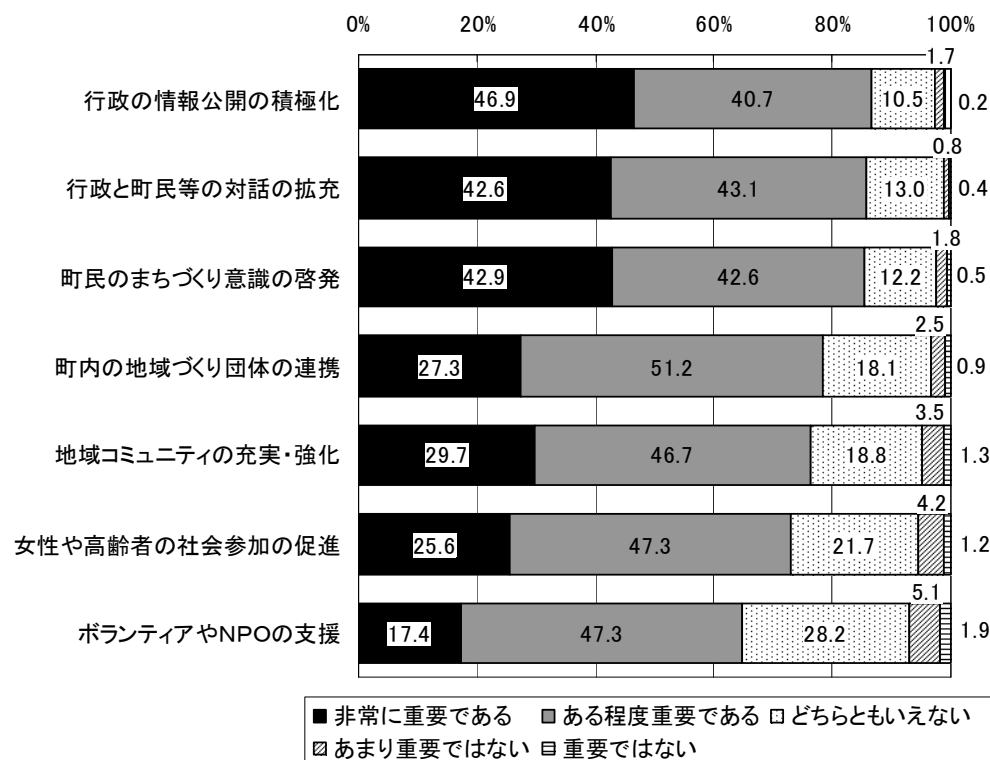
#### 1. 今後の南三陸町のまちづくりにおける取組の重要度

##### 【全体】

##### (1) 多様な主体の連携と協働によるまちづくり

「多様な主体の連携と協働によるまちづくり」を展開するために重要な取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「行政の情報公開の積極化」（87.6％）が最も重要視されており、次いで「行政と町民等の対話の拡充」（85.7％）、「町民のまちづくり意識の啓発」（85.5％）となっています。これら上位3項目は、他の項目と比べて「非常に重要である」という意識が高い結果となっています。

図表 「多様な主体の連携と協働によるまちづくり」にかかる各種取組の重要度



※右記表の項目の並びは選択肢順。

※NPO：Non Profit Organizationの略。継続的・自発的に行う、営利を目的としない民間活動団体。

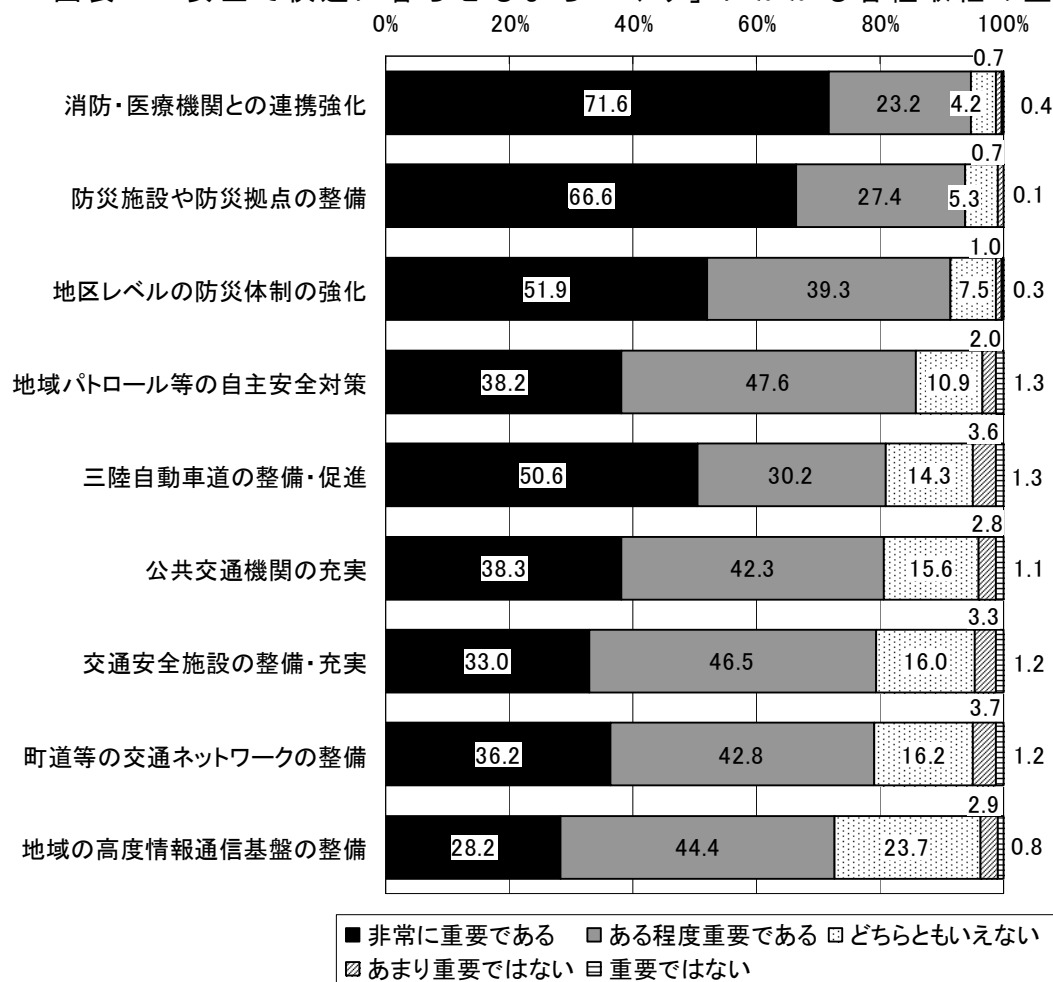
項 目	有効回答数	非常に重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
行政の情報公開の積極化	1009	473	411	106	17	2
	100.0%	46.9%	40.7%	10.5%	1.7%	0.2%
町民のまちづくり意識の啓発	1005	431	428	123	18	5
	100.0%	42.9%	42.6%	12.2%	1.8%	0.5%
行政と町民等の対話の拡充	1004	428	433	131	8	4
	100.0%	42.6%	43.1%	13.0%	0.8%	0.4%
ボランティアやNPOの支援	995	173	471	281	51	19
	100.0%	17.4%	47.3%	28.2%	5.1%	1.9%
町内の地域づくり団体の連携	994	271	509	180	25	9
	100.0%	27.3%	51.2%	18.1%	2.5%	0.9%
女性や高齢者の社会参加の促進	1000	256	473	217	42	12
	100.0%	25.6%	47.3%	21.7%	4.2%	1.2%
地域コミュニティの充実・強化	992	295	463	186	35	13
	100.0%	29.7%	46.7%	18.8%	3.5%	1.3%



## (2) 安全で快適に暮らせるまちづくり

「安全で快適に暮らせるまちづくり」を展開するために重要な取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「消防・医療機関との連携強化」（94.8％）が最も重要視されており、次いで「防災施設や防災拠点の整備」（94.0％）、「地区レベルの防災体制の強化」（91.2％）などとなっています。

図表 「安全で快適に暮らせるまちづくり」にかかる各種取組の重要度



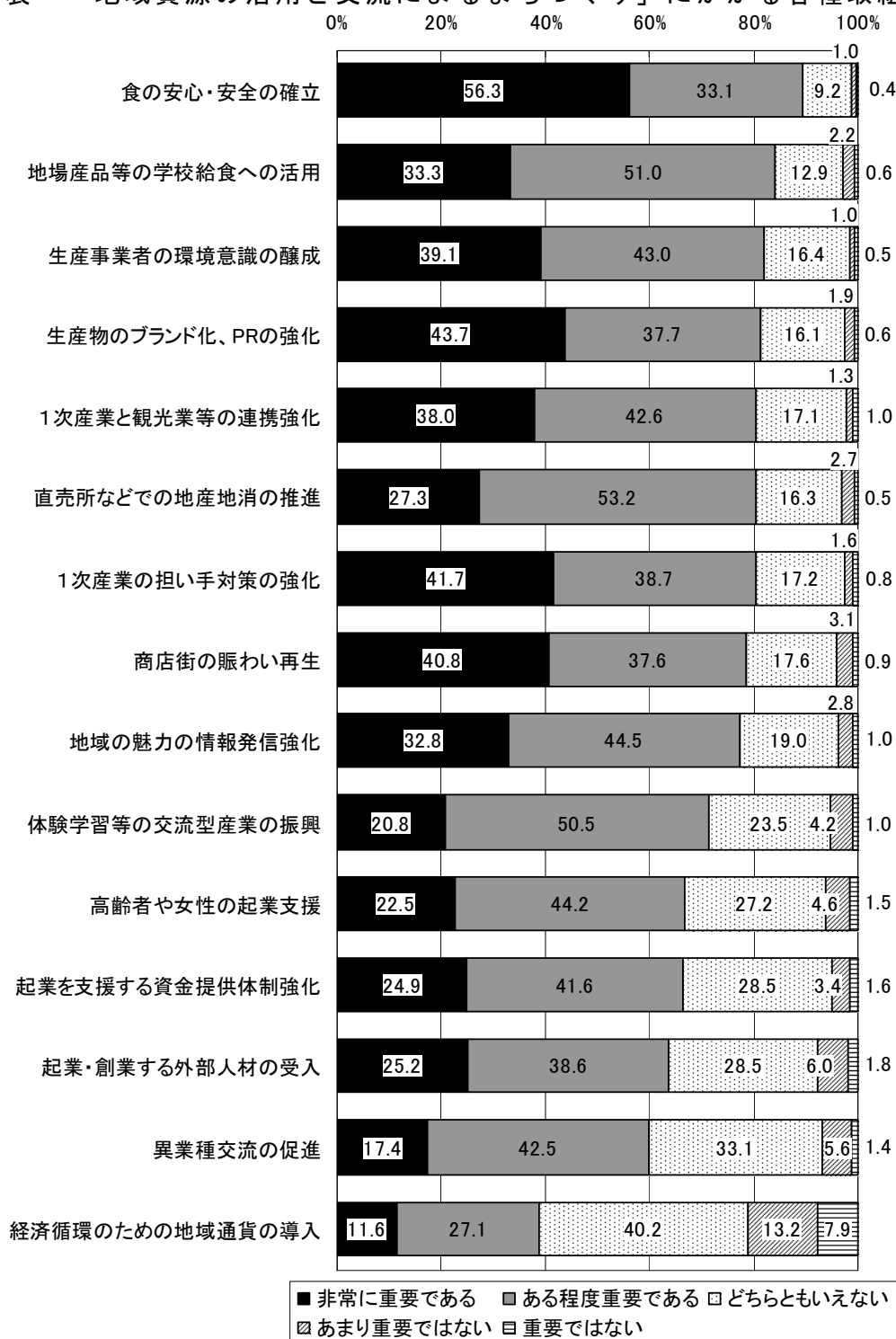
※右記表の項目の並びは選択肢順。

項目	有効回答数	非常に重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
防災施設や防災拠点の整備	1008	671	276	53	7	1
	100.0%	66.6%	27.4%	5.3%	0.7%	0.1%
地区レベルの防災体制の強化	1004	521	395	75	10	3
	100.0%	51.9%	39.3%	7.5%	1.0%	0.3%
消防・医療機関との連携強化	1010	723	234	42	7	4
	100.0%	71.6%	23.2%	4.2%	0.7%	0.4%
地域パトロール等の自主安全対策	1005	384	478	110	20	13
	100.0%	38.2%	47.6%	10.9%	2.0%	1.3%
交通安全施設の整備・充実	992	327	461	159	33	12
	100.0%	33.0%	46.5%	16.0%	3.3%	1.2%
三陸自動車道の整備・促進	1012	512	306	145	36	13
	100.0%	50.6%	30.2%	14.3%	3.6%	1.3%
町道等の交通ネットワークの整備	1003	363	429	162	37	12
	100.0%	36.2%	42.8%	16.2%	3.7%	1.2%
公共交通機関の充実	1001	383	423	156	28	11
	100.0%	38.3%	42.3%	15.6%	2.8%	1.1%
地域の高度情報通信基盤の整備	998	281	443	237	29	8
	100.0%	28.2%	44.4%	23.7%	2.9%	0.8%

### （３）地域資源の活用と交流によるまちづくり

「地域資源の活用と交流によるまちづくり」を展開するために重要な取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「食の安心・安全の確立」（89.4％）が最も重要視されており、次いで「地場産品等の学校給食への活用」（84.3％）などとなっています。その他、「非常に重要である」という回答では「生産物のブランド化」や「１次産業の担い手対策、観光業等との連携強化」など、いずれも１次産業を基軸とした産業振興が上位を占めています。また、「商店街の賑わい再生」（非常に重要である：40.8％）を重要視する声も少なくありません。

図表 「地域資源の活用と交流によるまちづくり」にかかる各種取組の重要度



項 目	有効回答 数	非常に重 要である	ある程度重 要である	どちらとも いえない	あまり重要 ではない	重要では ない
生産物のブランド化、PRの強化	1012	442	382	163	19	6
	100.0%	43.7%	37.7%	16.1%	1.9%	0.6%
1次産業と観光業等の連携強化	1003	381	427	172	13	10
	100.0%	38.0%	42.6%	17.1%	1.3%	1.0%
食の安心・安全の確立	1012	570	335	93	10	4
	100.0%	56.3%	33.1%	9.2%	1.0%	0.4%
生産事業者の環境意識の醸成	1000	391	430	164	10	5
	100.0%	39.1%	43.0%	16.4%	1.0%	0.5%
1次産業の担い手対策の強化	1009	421	390	174	16	8
	100.0%	41.7%	38.7%	17.2%	1.6%	0.8%
地場産品等の学校給食への活用	1028	342	524	133	23	6
	100.0%	33.3%	51.0%	12.9%	2.2%	0.6%
直売所などでの地産地消の推進	1013	277	539	165	27	5
	100.0%	27.3%	53.2%	16.3%	2.7%	0.5%
商店街の賑わい再生	1024	418	385	180	32	9
	100.0%	40.8%	37.6%	17.6%	3.1%	0.9%
体験学習等の交流型産業の振興	1007	209	509	237	42	10
	100.0%	20.8%	50.5%	23.5%	4.2%	1.0%
地域の魅力の情報発信強化	1018	334	453	193	28	10
	100.0%	32.8%	44.5%	19.0%	2.8%	1.0%
異業種交流の促進	1002	174	426	332	56	14
	100.0%	17.4%	42.5%	33.1%	5.6%	1.4%
起業・創業する外部人材の受入	1005	253	388	286	60	18
	100.0%	25.2%	38.6%	28.5%	6.0%	1.8%
高齢者や女性の起業支援	1016	229	449	276	47	15
	100.0%	22.5%	44.2%	27.2%	4.6%	1.5%
起業を支援する資金提供体制強化	1003	250	417	286	34	16
	100.0%	24.9%	41.6%	28.5%	3.4%	1.6%
経済循環のための地域通貨の導入	1002	116	272	403	132	79
	100.0%	11.6%	27.1%	40.2%	13.2%	7.9%

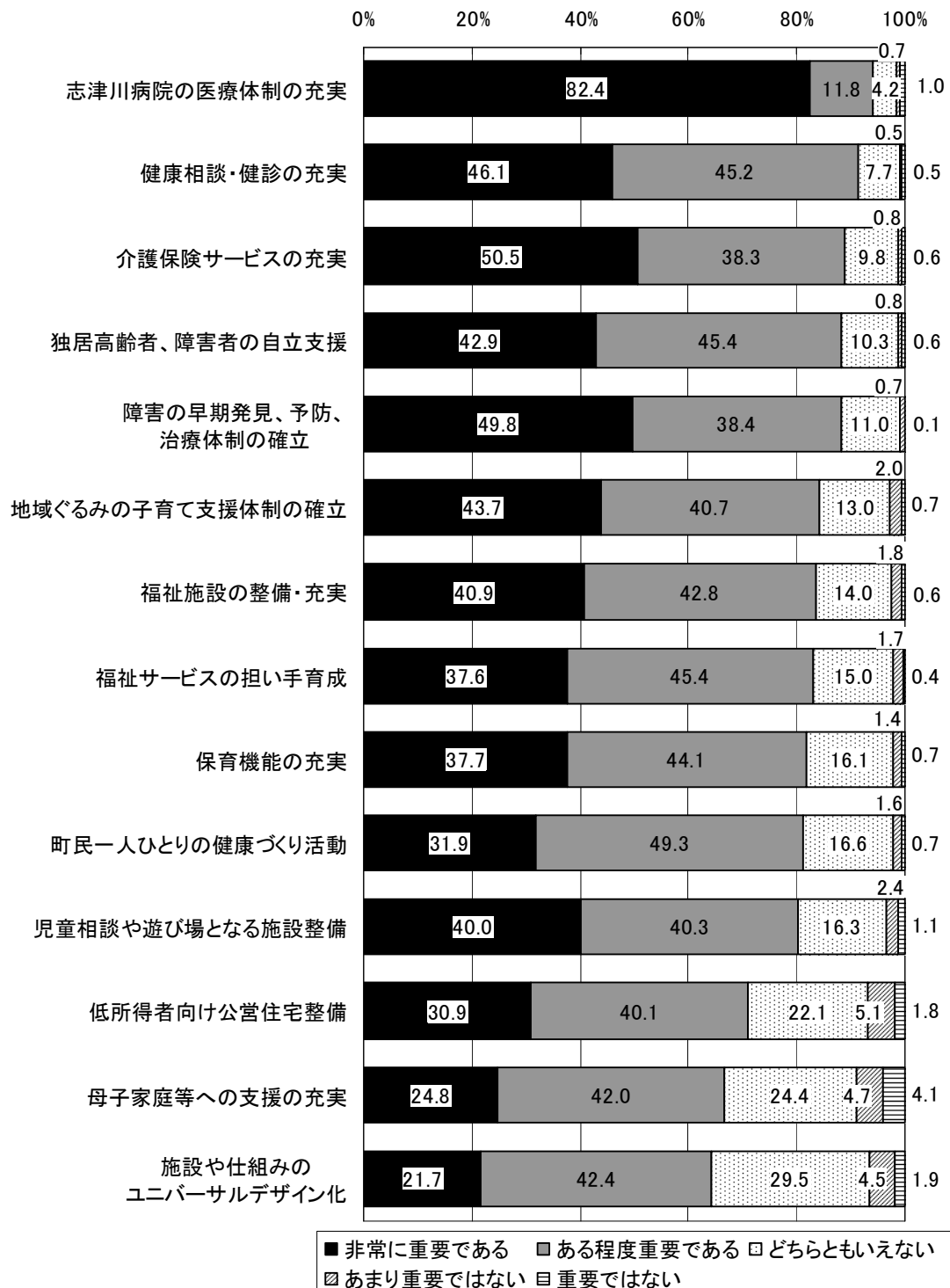
※上記表の項目の並びは選択肢順。

※地域通貨：地域社会の活性化を狙いとして、ある特定の地域の中だけで使えるようにした通貨。

#### （４）安心して健やかに暮らせるまちづくり

「安心して健やかに暮らせるまちづくり」を展開するために重要な取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「志津川病院の医療体制の充実」（94.2%）が最も重要視されています。「非常に重要である」（82.4%）という割合が他の項目と比べて極めて高く、町民の高い意識を反映する結果となっています。その他には、「健康相談・検診の充実」「介護保険サービスの充実」「独居高齢者・障害者の自立支援」、あるいは、「地域ぐるみの子育て支援体制の確立」など、少子高齢化社会の進行に伴う対応策が重視されています。

図表 「安心して健やかに暮らせるまちづくり」にかかる各種取組の重要度



項 目	有効回答 数	非常に重 要である	ある程度重 要である	どちらとも いえない	あまり重要 ではない	重要では ない
志津川病院の医療体制の充実	1045	861	123	44	7	10
	100.0%	82.4%	11.8%	4.2%	0.7%	1.0%
健康相談・健診の充実	1015	468	459	78	5	5
	100.0%	46.1%	45.2%	7.7%	0.5%	0.5%
町民一人ひとりの健康づくり活動	1017	324	501	169	16	7
	100.0%	31.9%	49.3%	16.6%	1.6%	0.7%
介護保険サービスの充実	1023	517	392	100	8	6
	100.0%	50.5%	38.3%	9.8%	0.8%	0.6%
独居高齢者、障害者の自立支援	1018	437	462	105	8	6
	100.0%	42.9%	45.4%	10.3%	0.8%	0.6%
施設や仕組みのユニバーサルデ ザイン化	1004	218	426	296	45	19
	100.0%	21.7%	42.4%	29.5%	4.5%	1.9%
福祉施設の整備・充実	1010	413	432	141	18	6
	100.0%	40.9%	42.8%	14.0%	1.8%	0.6%
福祉サービスの担い手育成	1016	382	461	152	17	4
	100.0%	37.6%	45.4%	15.0%	1.7%	0.4%
障害の早期発見、予防、治療体制 の確立	1014	505	389	112	7	1
	100.0%	49.8%	38.4%	11.0%	0.7%	0.1%
低所得者向け公営住宅整備	1016	314	407	225	52	18
	100.0%	30.9%	40.1%	22.1%	5.1%	1.8%
地域ぐるみの子育て支援体制の確 立	1018	445	414	132	20	7
	100.0%	43.7%	40.7%	13.0%	2.0%	0.7%
児童相談や遊び場となる施設整備	1013	405	408	165	24	11
	100.0%	40.0%	40.3%	16.3%	2.4%	1.1%
母子家庭等への支援の充実	1018	252	428	248	48	42
	100.0%	24.8%	42.0%	24.4%	4.7%	4.1%
保育機能の充実	1018	384	449	164	14	7
	100.0%	37.7%	44.1%	16.1%	1.4%	0.7%

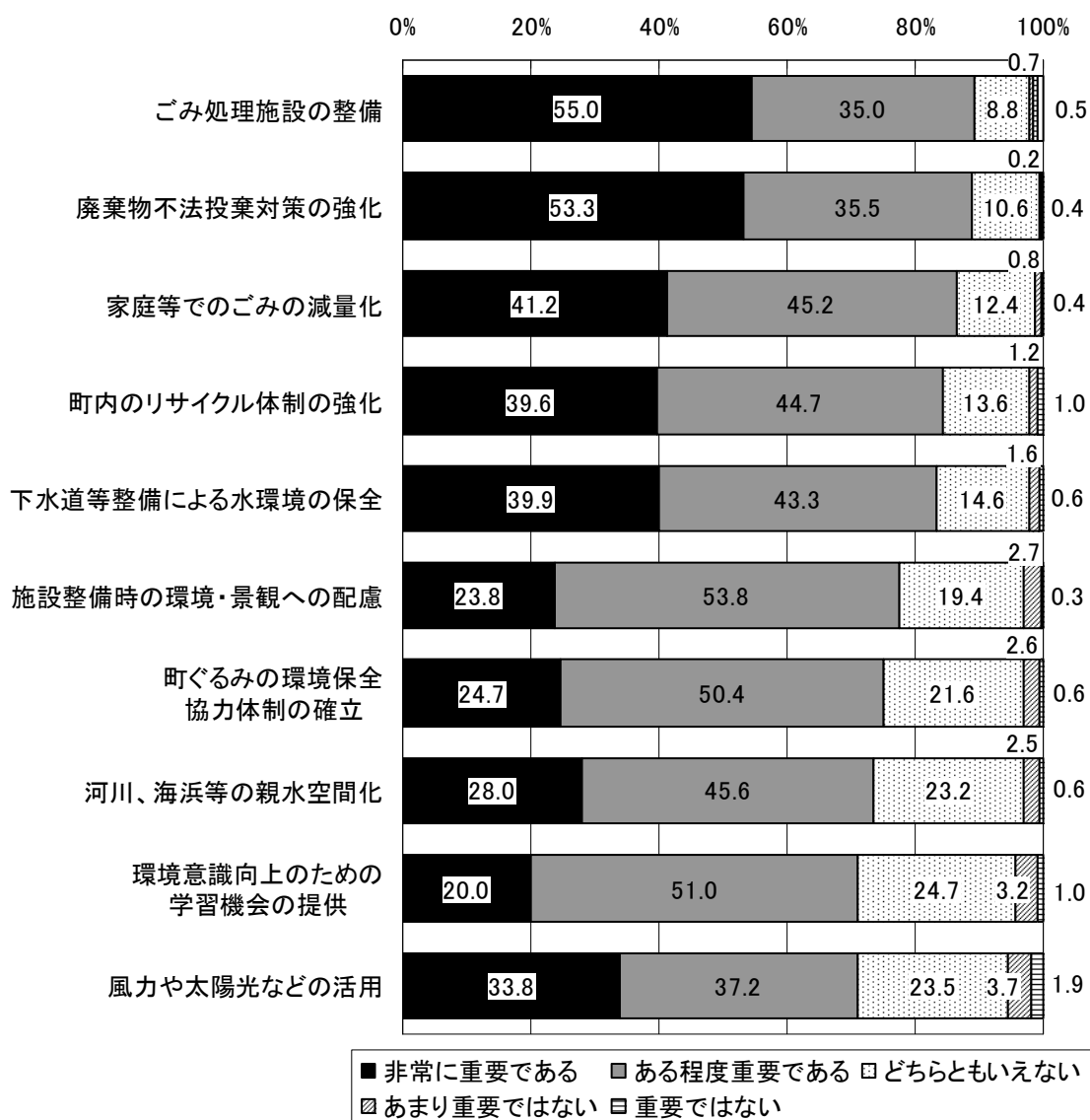
※上記表の項目の並びは選択肢順。

※ユニバーサルデザイン：バリアフリーはもともとあるバリアをフリーにする（取り除く）  
ことであるに対して、最初から、年齢や身体状況等に関わらず、  
すべての生活者が利用できる安全で使いやすいものや、暮らしや  
すい環境、快適なサービスをデザインすることを意味する。

## （５）豊かな自然と共生するまちづくり

「豊かな自然と共生するまちづくり」を展開するために重要な取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「ごみ処理施設の整備」（90.0％）が最も重要視されており、次いで「廃棄物不法投棄対策の強化」（88.8％）、「家庭等でのごみの減量化」（86.4％）などとなっています。ゴミ対策やリサイクル体制の強化が重要視されており、特に「ごみ処理施設の整備」や「廃棄物不法投棄対策」に関しては「非常に重要である」という声が高くなっています。

図表 「豊かな自然と共生するまちづくり」にかかる各種取組の重要度



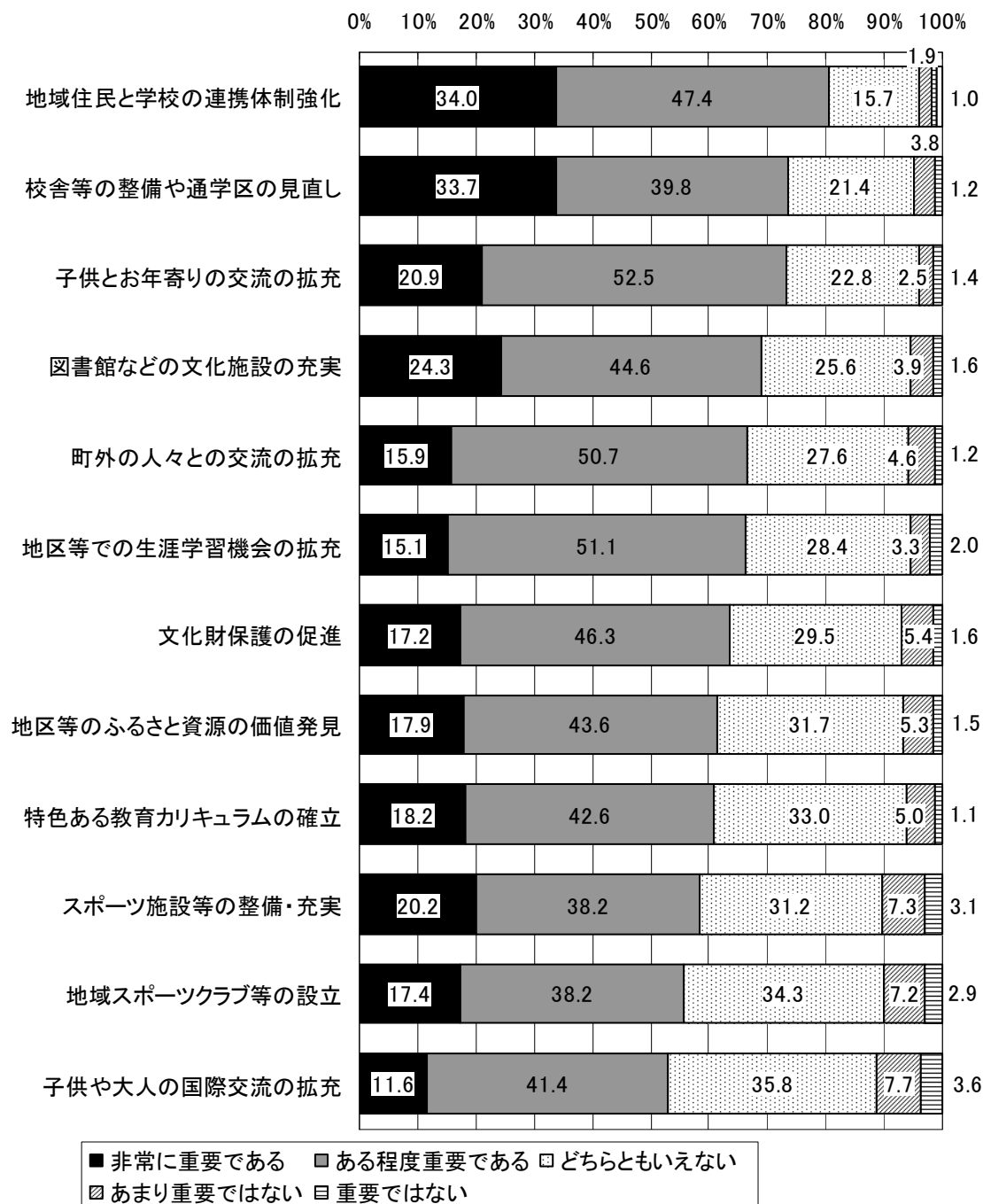
項 目	有効回答 数	非常に重 要である	ある程度重 要である	どちらとも いえない	あまり重要 ではない	重要では ない
環境意識向上のための学習機会の提供	1003	201	512	248	32	10
	100.0%	20.0%	51.0%	24.7%	3.2%	1.0%
町ぐるみの環境保全協力体制の確立	1003	248	506	217	26	6
	100.0%	24.7%	50.4%	21.6%	2.6%	0.6%
下水道等整備による水環境の保全	1009	403	437	147	16	6
	100.0%	39.9%	43.3%	14.6%	1.6%	0.6%
施設整備時の環境・景観への配慮	999	238	537	194	27	3
	100.0%	23.8%	53.8%	19.4%	2.7%	0.3%
河川、海浜等の親水空間化	986	276	450	229	25	6
	100.0%	28.0%	45.6%	23.2%	2.5%	0.6%
家庭等でのごみの減量化	1008	415	456	125	8	4
	100.0%	41.2%	45.2%	12.4%	0.8%	0.4%
ごみ処理施設の整備	1008	554	353	89	7	5
	100.0%	55.0%	35.0%	8.8%	0.7%	0.5%
町内のリサイクル体制の強化	1003	397	448	136	12	10
	100.0%	39.6%	44.7%	13.6%	1.2%	1.0%
廃棄物不法投棄対策の強化	1011	539	359	107	2	4
	100.0%	53.3%	35.5%	10.6%	0.2%	0.4%
風力や太陽光などの活用	1006	340	374	236	37	19
	100.0%	33.8%	37.2%	23.5%	3.7%	1.9%

※上記表の項目の並びは選択肢順。

## （６）交流と地域文化が人を育むまちづくり

「交流と地域文化が人を育むまちづくり」を展開するために重要な取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「地域住民と学校の連携対策強化」（81.4％）が最も重要視されており、次いで「校舎等の整備や通学区の見直し」（73.5％）、「子供とお年寄りの交流の拡充」（73.4％）などとなっています。

図表 「交流と地域文化が人を育むまちづくり」にかかる各種取組の重要度





項 目	有効回答 数	非常に重 要である	ある程度重 要である	どちらとも いえない	あまり重要 ではない	重要では ない
地区等での生涯学習機会の拡充	992	150	507	282	33	20
	100.0%	15.1%	51.1%	28.4%	3.3%	2.0%
子供とお年寄りの交流の拡充	1010	211	530	230	25	14
	100.0%	20.9%	52.5%	22.8%	2.5%	1.4%
町外の人々との交流の拡充	1003	159	509	277	46	12
	100.0%	15.9%	50.7%	27.6%	4.6%	1.2%
子供や大人の国際交流の拡充	1001	116	414	358	77	36
	100.0%	11.6%	41.4%	35.8%	7.7%	3.6%
図書館などの文化施設の充実	1000	243	446	256	39	16
	100.0%	24.3%	44.6%	25.6%	3.9%	1.6%
地域住民と学校の連携体制強化	1008	343	478	158	19	10
	100.0%	34.0%	47.4%	15.7%	1.9%	1.0%
特色ある教育カリキュラムの確立	993	181	423	328	50	11
	100.0%	18.2%	42.6%	33.0%	5.0%	1.1%
校舎等の整備や通学区の見直し	999	337	398	214	38	12
	100.0%	33.7%	39.8%	21.4%	3.8%	1.2%
地域スポーツクラブ等の設立	997	173	381	342	72	29
	100.0%	17.4%	38.2%	34.3%	7.2%	2.9%
スポーツ施設等の整備・充実	1002	202	383	313	73	31
	100.0%	20.2%	38.2%	31.2%	7.3%	3.1%
地区等のふるさと資源の価値発見	998	179	435	316	53	15
	100.0%	17.9%	43.6%	31.7%	5.3%	1.5%
文化財保護の促進	1004	173	465	296	54	16
	100.0%	17.2%	46.3%	29.5%	5.4%	1.6%

※ 上記表の項目の並びは選択肢順。

## 【地区別】

### ○各地区の傾向・特徴点（今後のまちづくりにおける取組の重要度から）

志津川地区では、「地域資源の活用と交流によるまちづくり」の分野における「24）商店街の賑わい再生」について「非常に重要である」（47.8%）という回答割合が高くなっています（対全体値＋7.0 ポイント）。その他の分野・項目に関しては、全体とほぼ同様の傾向にあります。

戸倉地区では、「安心して健やかに暮らせるまちづくり」の分野に関して「34）町民一人ひとりの健康づくり活動」を除く全ての項目で「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。中でも「40）障害の早期発見、予防、治療体制の確立」（59.9%：対全体値＋10.1 ポイント）、「38）福祉施設の整備・充実」（49.3%：対全体値＋8.4 ポイント）の回答割合が特に高くなっています。

また、「地域資源の活用と交流によるまちづくり」の分野では、「26）地域の魅力の情報発信強化」（39.7%：対全体値＋6.9 ポイント）、「22）地場産品等の学校給食への活用」（38.7%：対全体値＋5.4 ポイント）、「25）体験学習等の体験交流型産業の振興」（24.8%：対全体値＋4.0 ポイント）等について「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。

さらに、「豊かな自然と共生するまちづくり」の分野では、「51）家庭等でのごみの減量化」（49.6%：対全体値＋8.4 ポイント）、「53）町内のリサイクル体制の強化」（44.9%：対全体値＋5.3 ポイント）、「46）環境意識向上のための学習機会の提供」（26.1%：対全体値＋6.1 ポイント）等について「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。

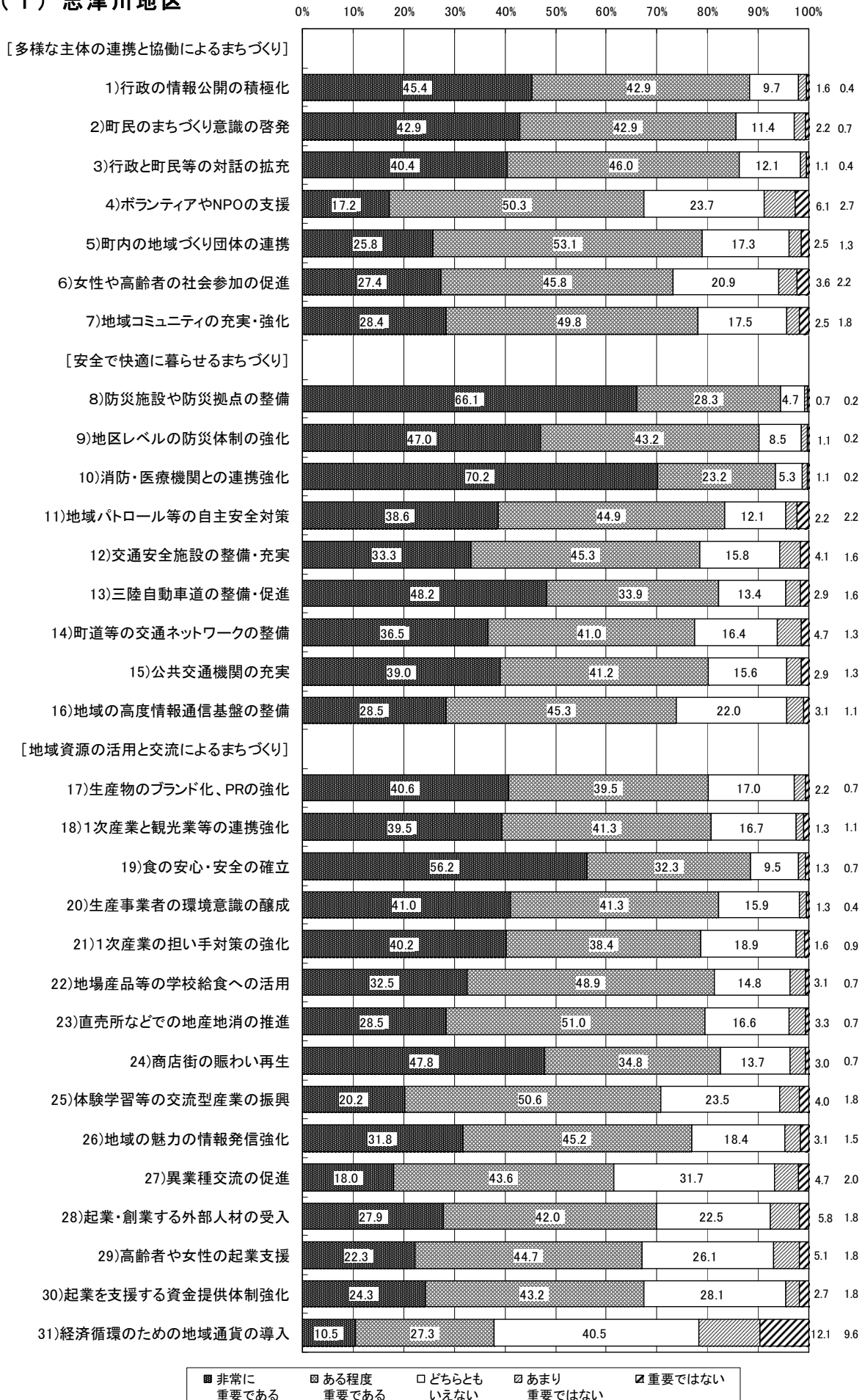
入谷地区では、「多様な主体の連携と協働によるまちづくり」の分野に関して「3）行政と町民等の対話の拡充」（47.0%：対全体値＋4.4 ポイント）、「7）地域コミュニティの充実・強化」（35.7%：対全体値＋6.0 ポイント）、「5）町内の地域づくり団体の連携」（34.5%：対全体値＋7.2 ポイント）等について「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。

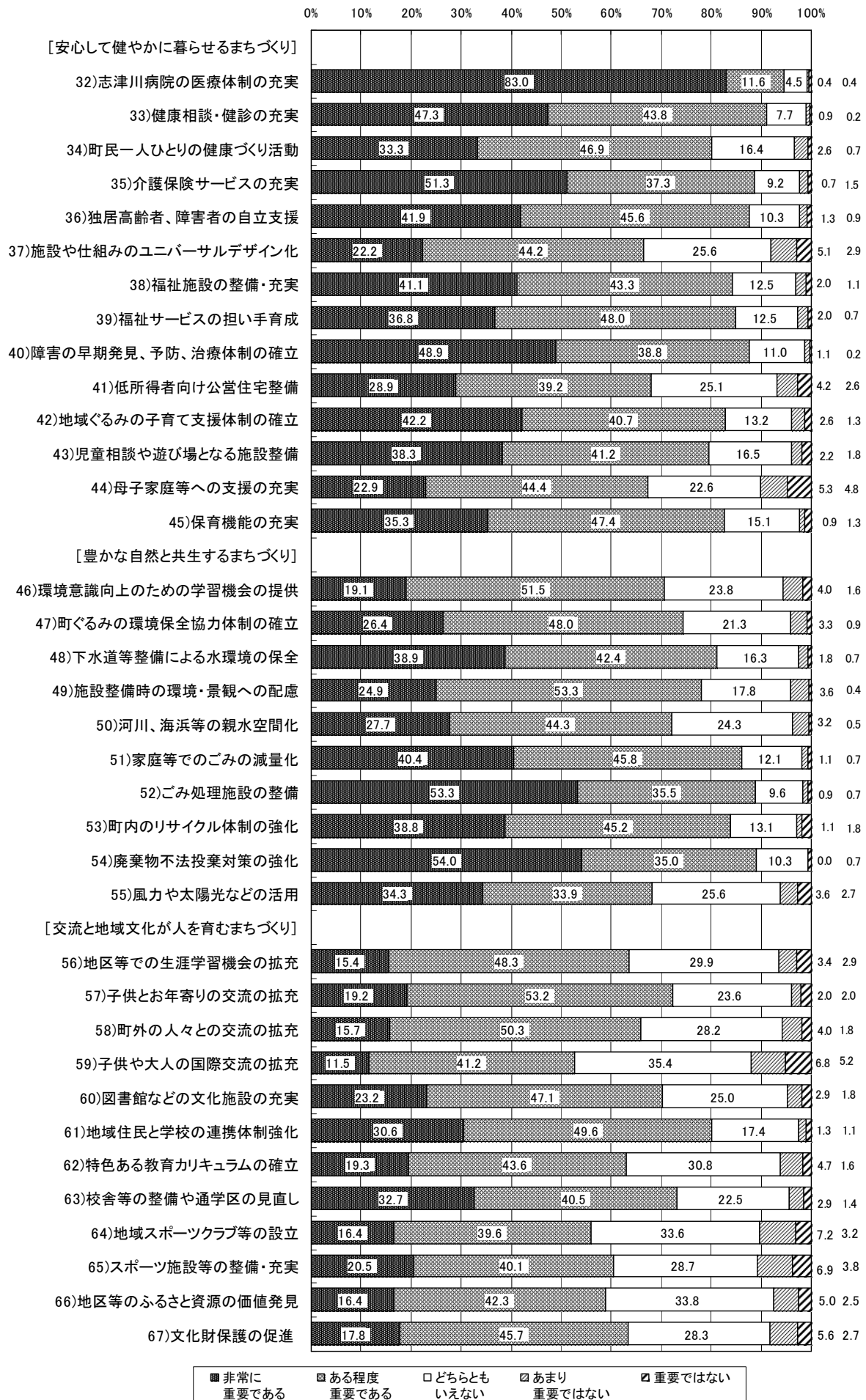
また、「豊かな自然と共生するまちづくり」の分野では、「54）廃棄物不法投棄対策の強化」（63.5%：対全体値＋10.2 ポイント）、「52）ごみ処理施設の整備」（64.0%：対全体値＋9.0 ポイント）、「51）家庭等でのごみの減量化」（49.6%：対全体値＋8.4 ポイント）等について「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。

さらに、「交流と地域文化が人を育むまちづくり」の分野では、「63）校舎等の整備や通学区の見直し」（53.0%：対全体値＋19.3 ポイント）、「61）地域住民と学校の連携体制強化」（40.9%：対全体値＋6.9 ポイント）、「62）特色ある教育カリキュラムの確立」（24.1%：対全体値＋5.9 ポイント）等について「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。

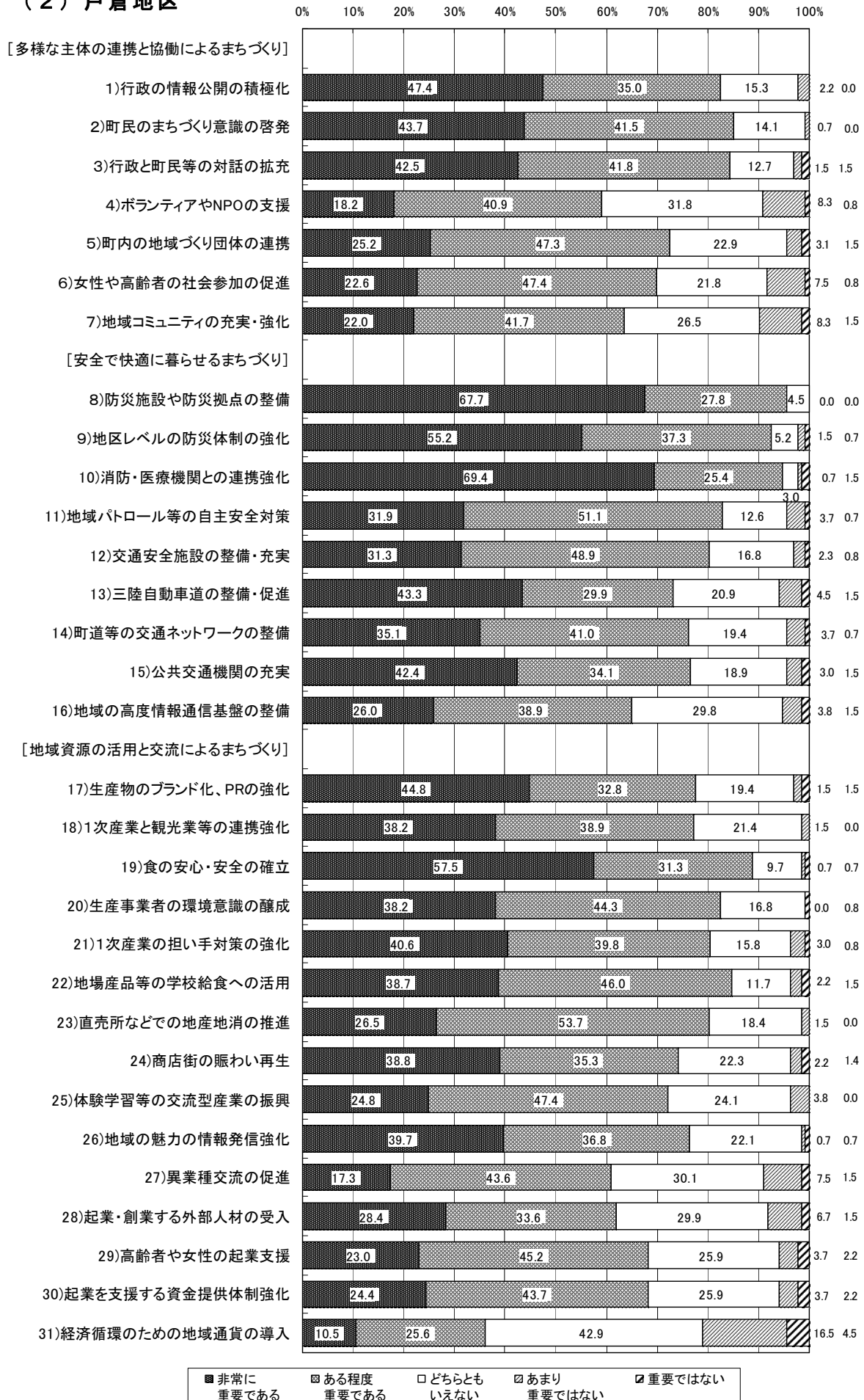
歌津地区では、「地域資源の活用と交流によるまちづくり」の分野における「17) 生産品のブランド化、P Rの強化」(49.0%：対全体値+5.3ポイント)、あるいは、「安心して健やかに暮らせるまちづくり」の分野における「45) 保育機能の充実」(42.4%：対全体値+4.7ポイント)等について「非常に重要である」という回答割合が高くなっています。その他の分野・項目に関しては、全体とほぼ同様の傾向にあります。

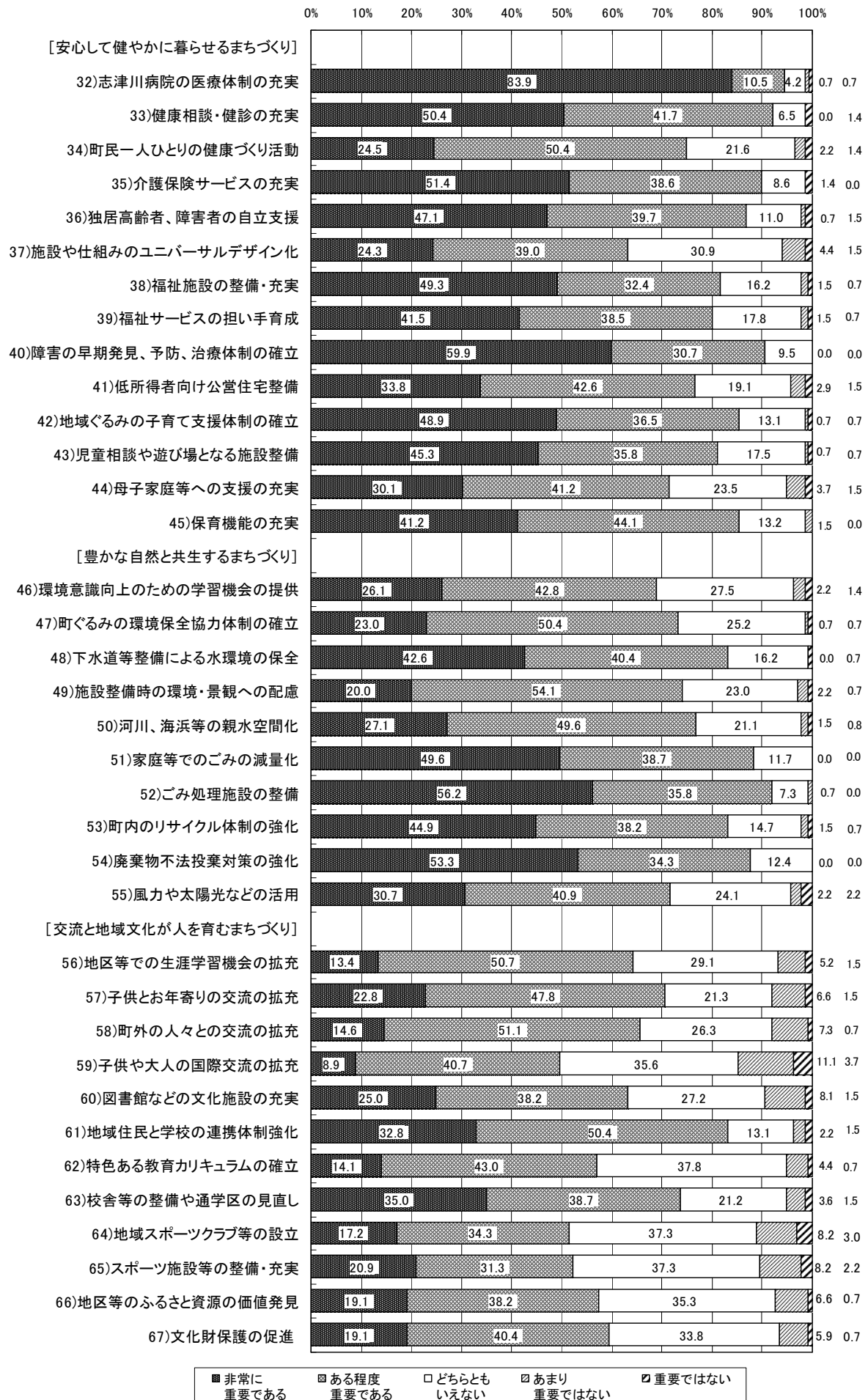
## (1) 志津川地区



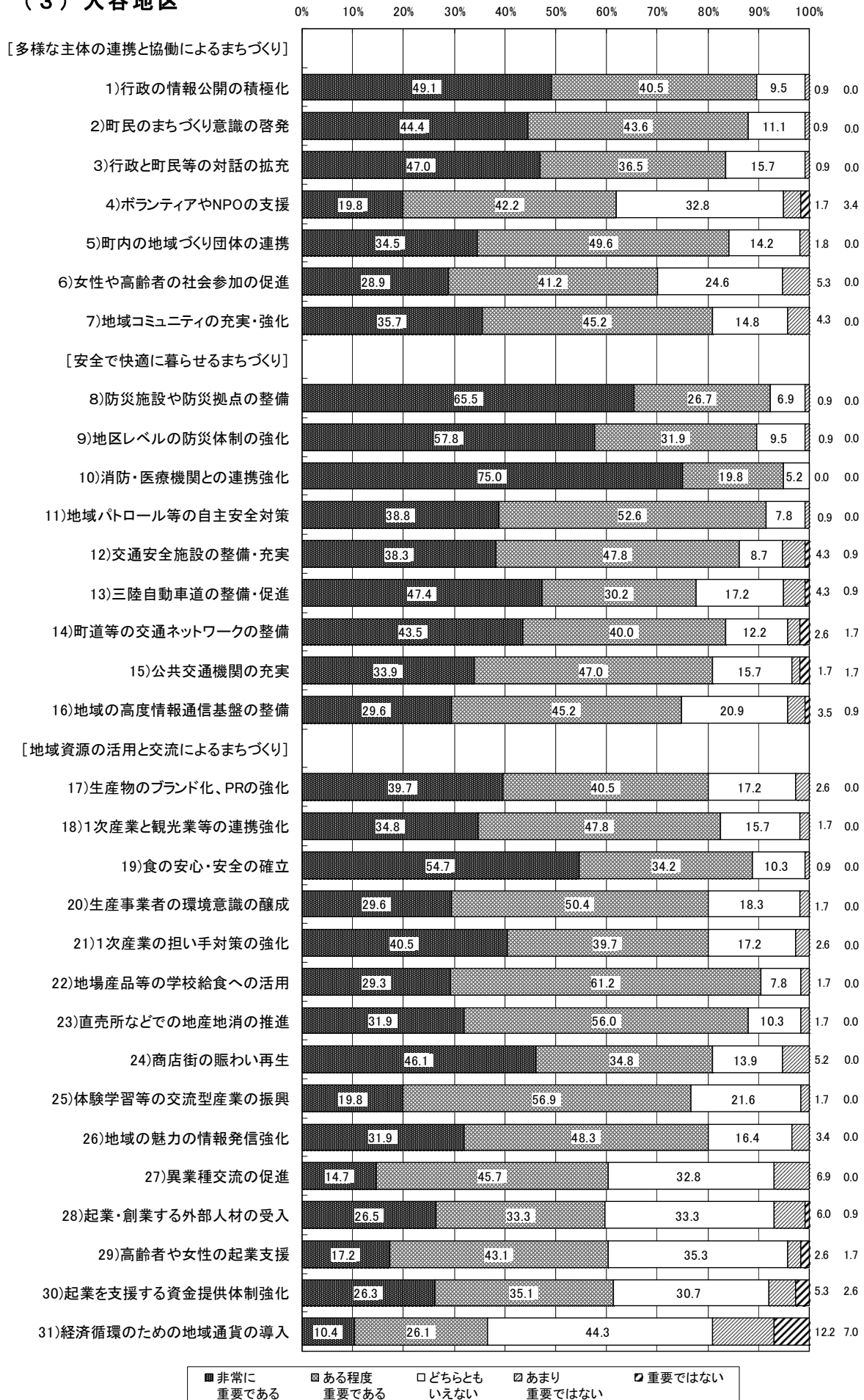


## (2) 戸倉地区

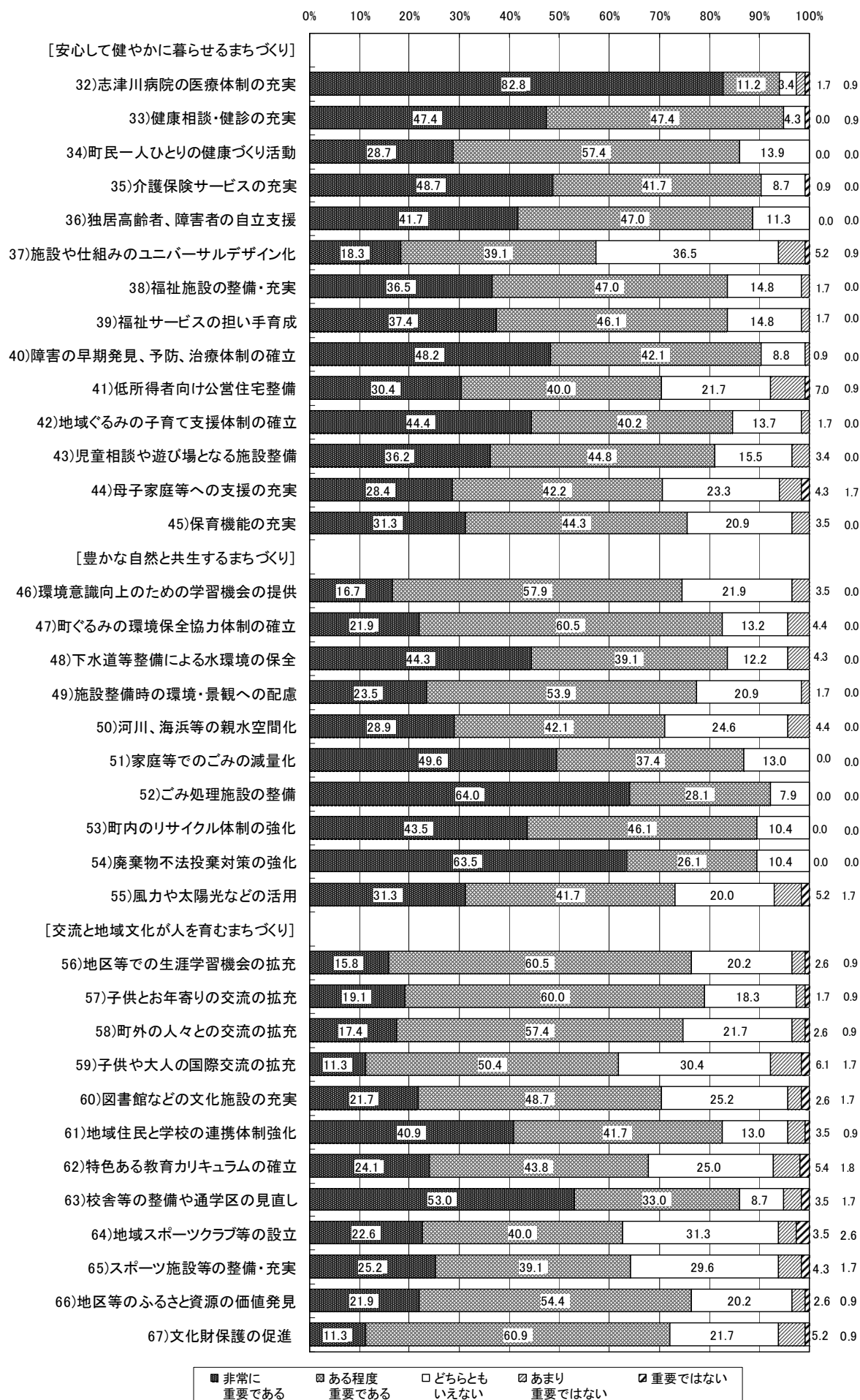




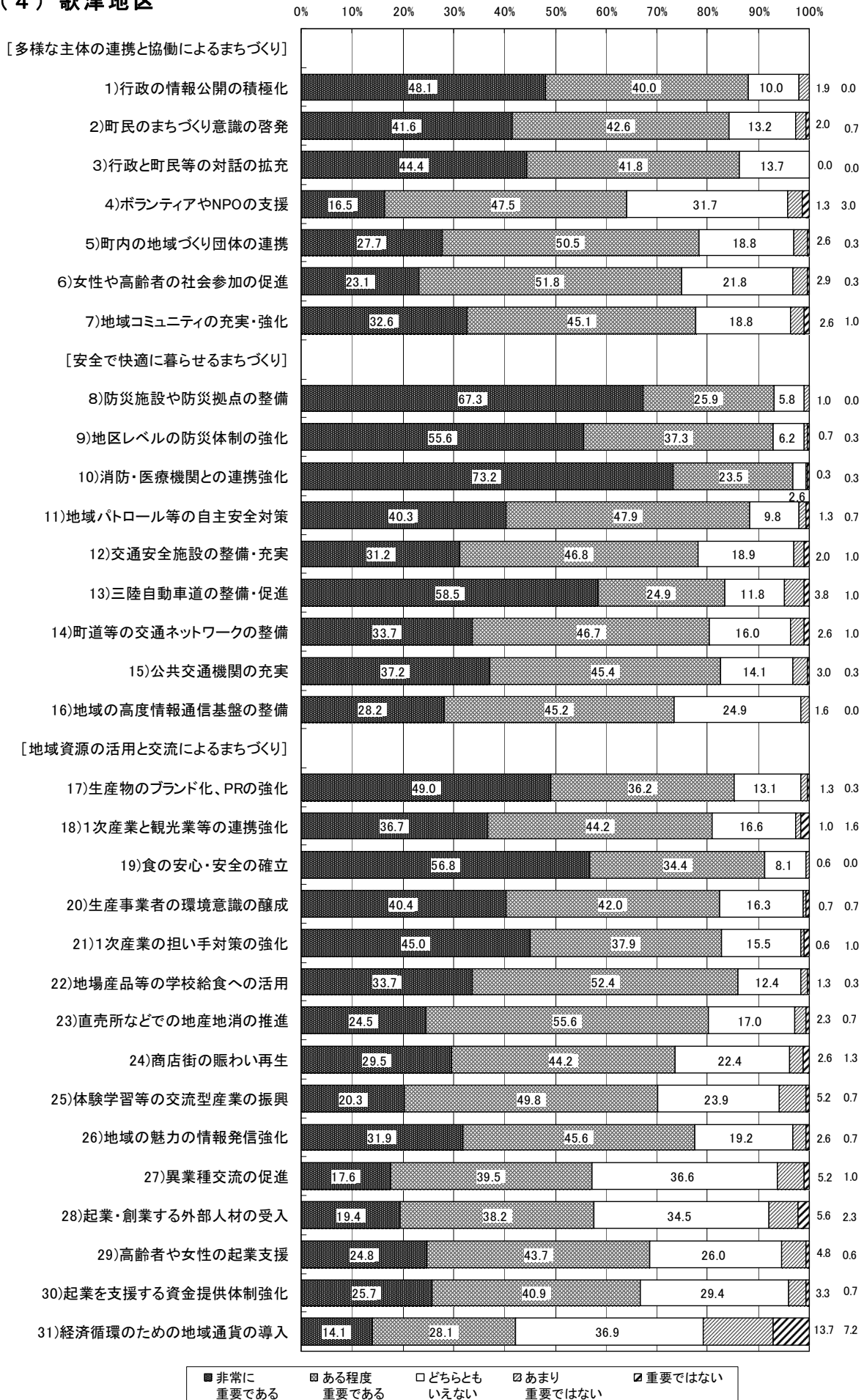
### (3) 入谷地区

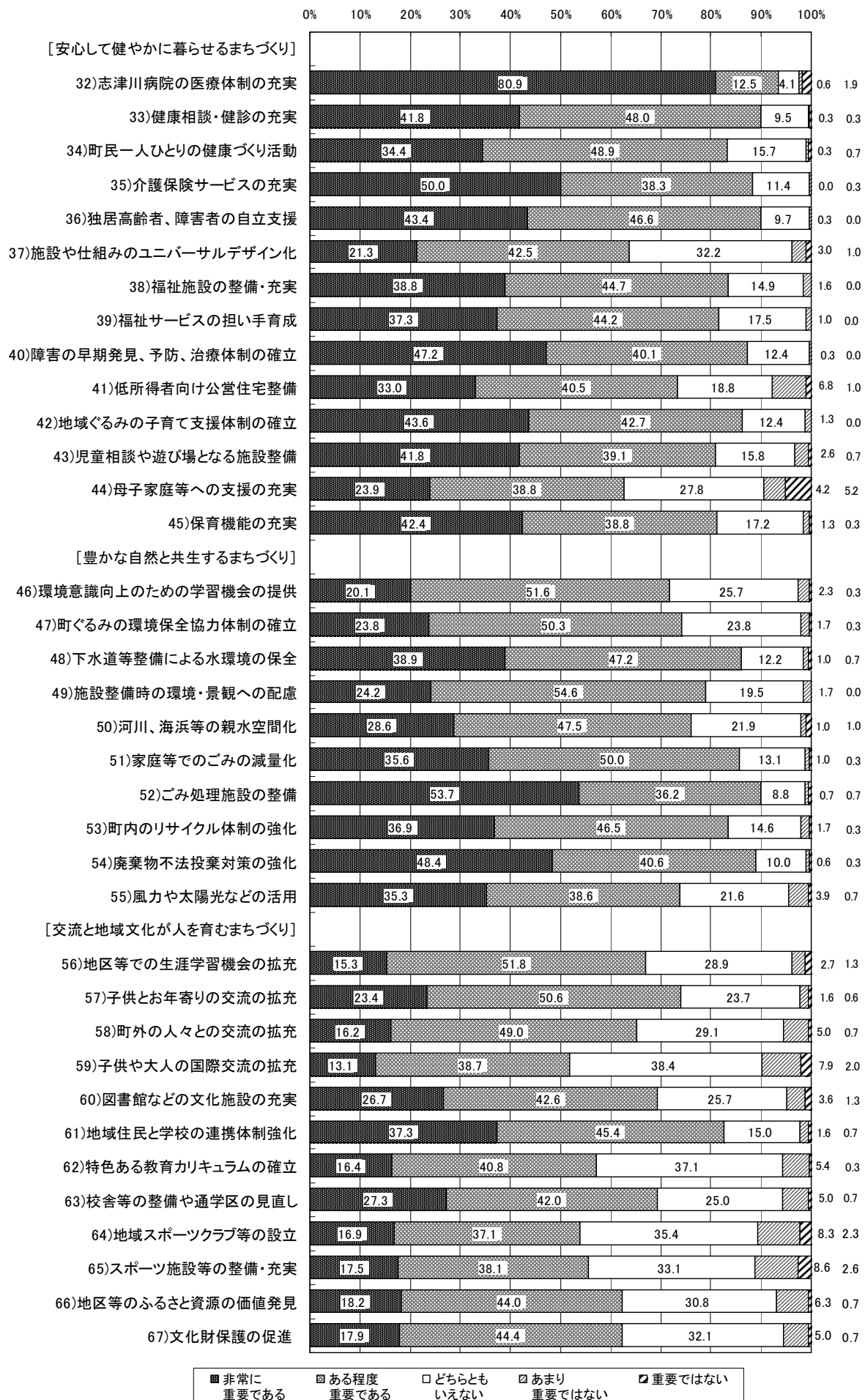






#### (4) 歌津地区

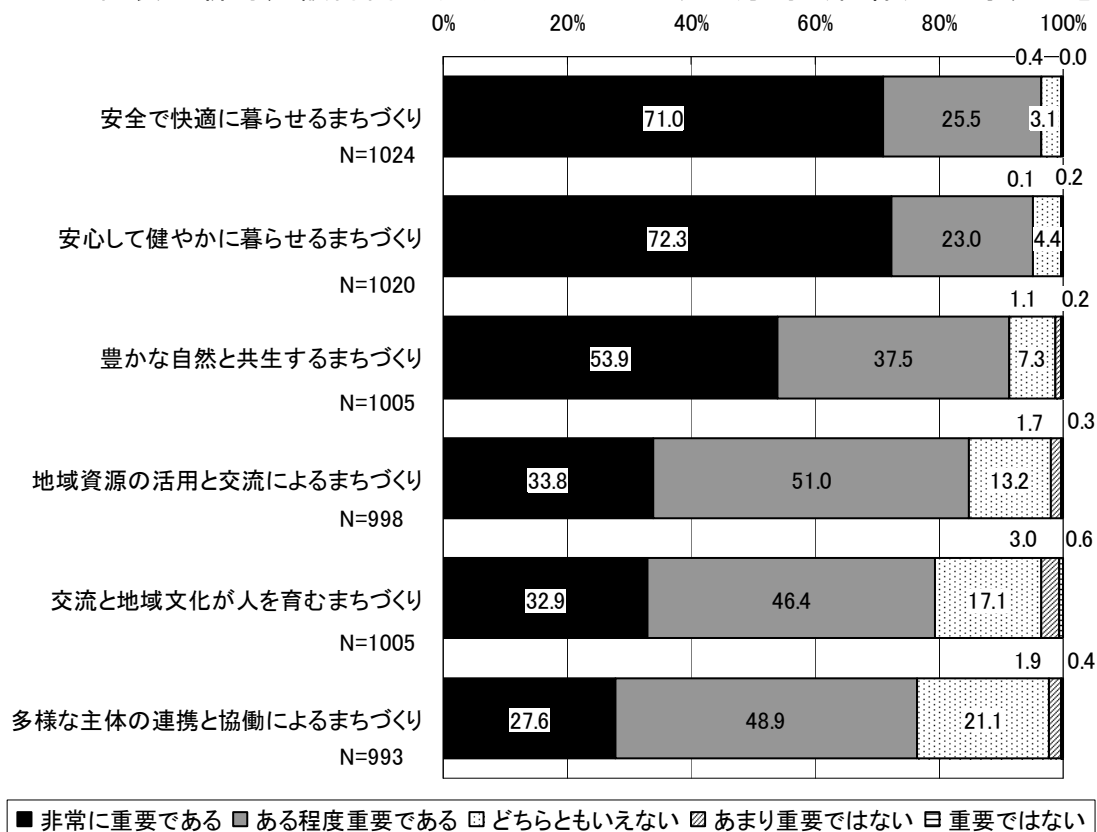




## 2. 新町建設計画におけるまちづくりの方向（目標）について

志津川町・歌津町の合併に際して策定された「新町建設計画」におけるまちづくりの方向に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「安全で快適に暮らせるまちづくり」（96.5%）、「安心して健やかに暮らせるまちづくり」（95.3%）にみられるように、特に「安心・安全」環境を重要視する声が高くなっています。これら2項目については、「非常に重要である」（それぞれ、71.0%、72.3%）という割合が他の項目と比べて極めて高く、町民の高い意識を反映する結果となっています。

図表 新町建設計画におけるまちづくりの方向（目標）に対する意識

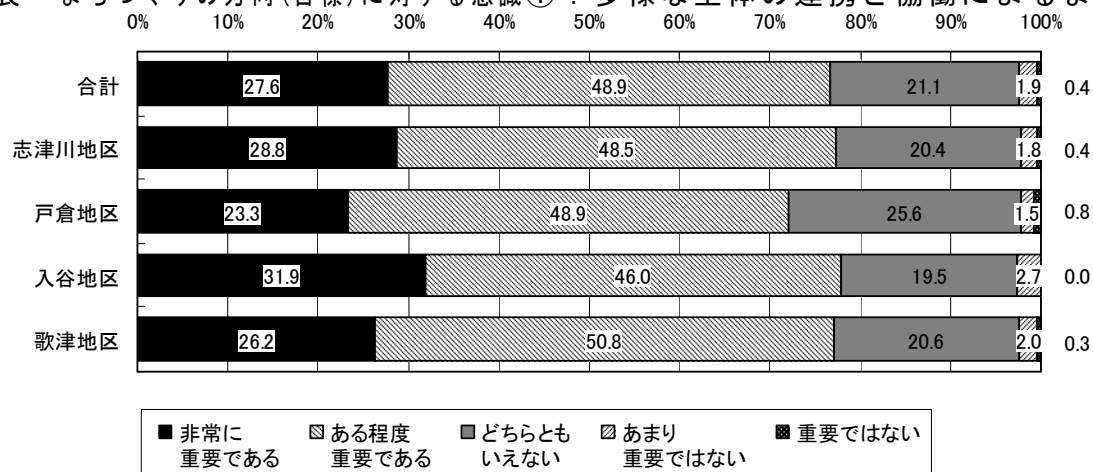


項目	有効回答数	非常に重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
多様な主体の連携と協働によるまちづくり	993	274	486	210	19	4
	100.0%	27.6%	48.9%	21.1%	1.9%	0.4%
安全で快適に暮らせるまちづくり	1024	727	261	32	4	0
	100.0%	71.0%	25.5%	3.1%	0.4%	0.0%
地域資源の活用と交流によるまちづくり	998	337	509	132	17	3
	100.0%	33.8%	51.0%	13.2%	1.7%	0.3%
安心して健やかに暮らせるまちづくり	1020	737	235	45	1	2
	100.0%	72.3%	23.0%	4.4%	0.1%	0.2%
豊かな自然と共生するまちづくり	1005	542	377	73	11	2
	100.0%	53.9%	37.5%	7.3%	1.1%	0.2%
交流と地域文化が人を育むまちづくり	1005	331	466	172	30	6
	100.0%	32.9%	46.4%	17.1%	3.0%	0.6%

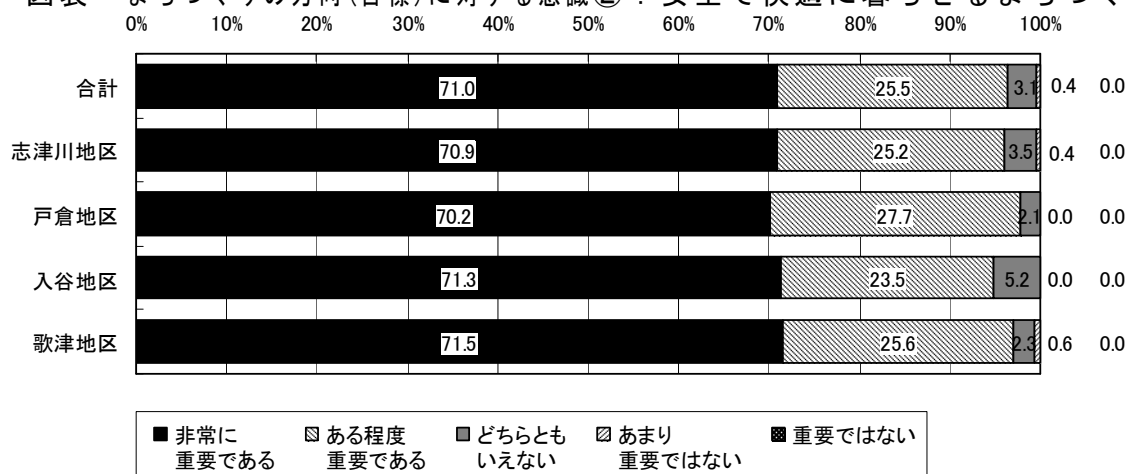
※上記表の項目の並びは選択肢順

なお、参考までに、各分野ごとに地区別の回答状況をみると次のとおりです。

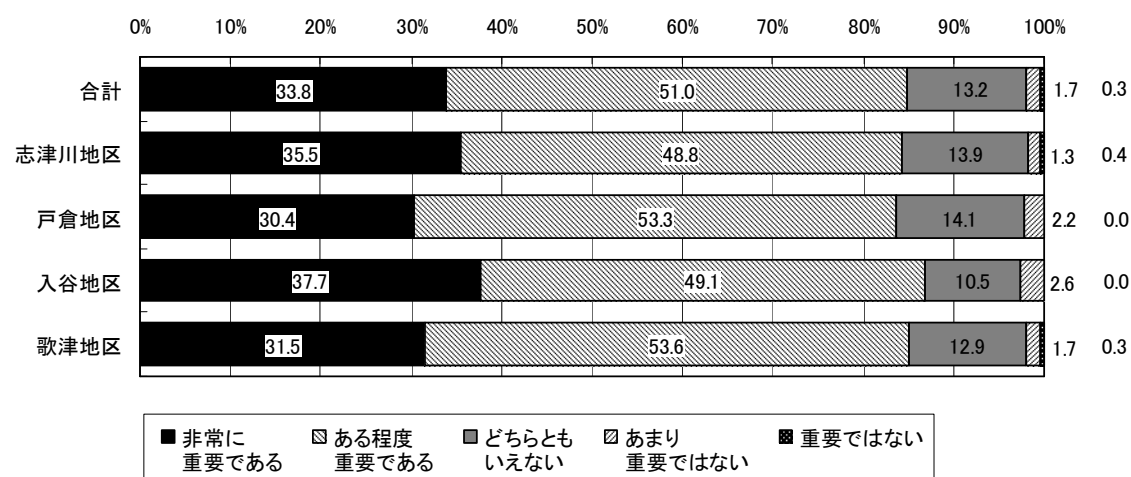
図表 まちづくりの方向(目標)に対する意識①：多様な主体の連携と協働によるまちづくり



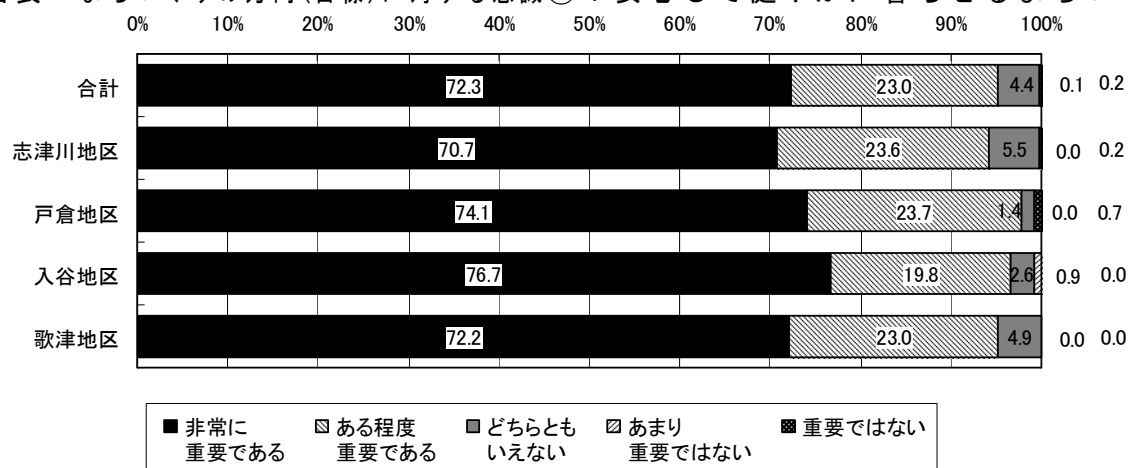
図表 まちづくりの方向(目標)に対する意識②：安全で快適に暮らせるまちづくり



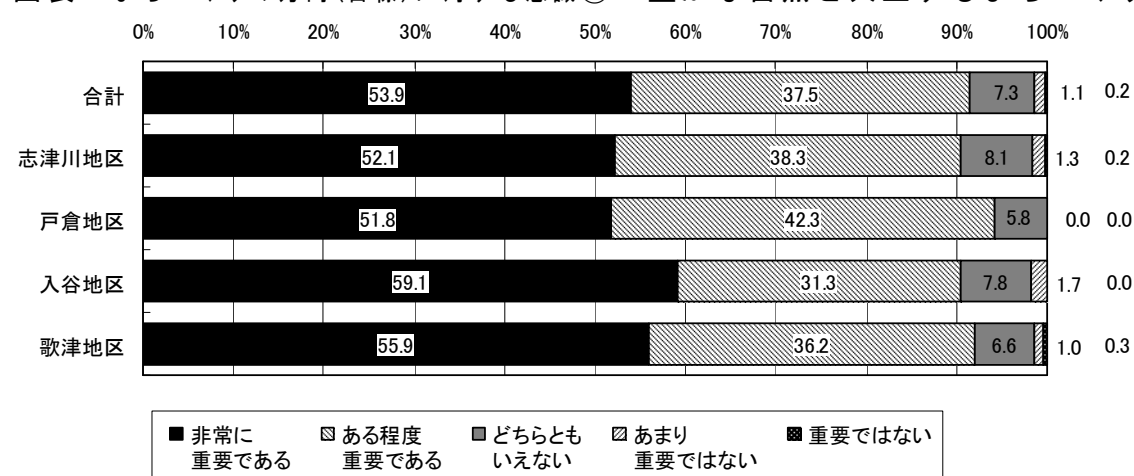
図表 まちづくりの方向(目標)に対する意識③：地域資源の活用と交流によるまちづくり



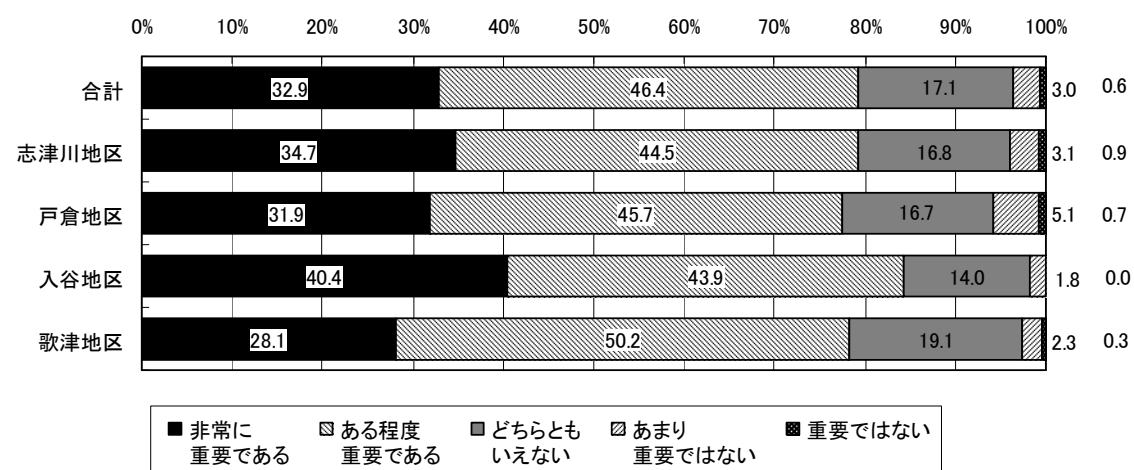
図表 まちづくりの方向(目標)に対する意識④：安心して健やかに暮らせるまちづくり



図表 まちづくりの方向(目標)に対する意識⑤：豊かな自然と共生するまちづくり



図表 まちづくりの方向(目標)に対する意識⑥：交流と地域文化が人を育むまちづくり

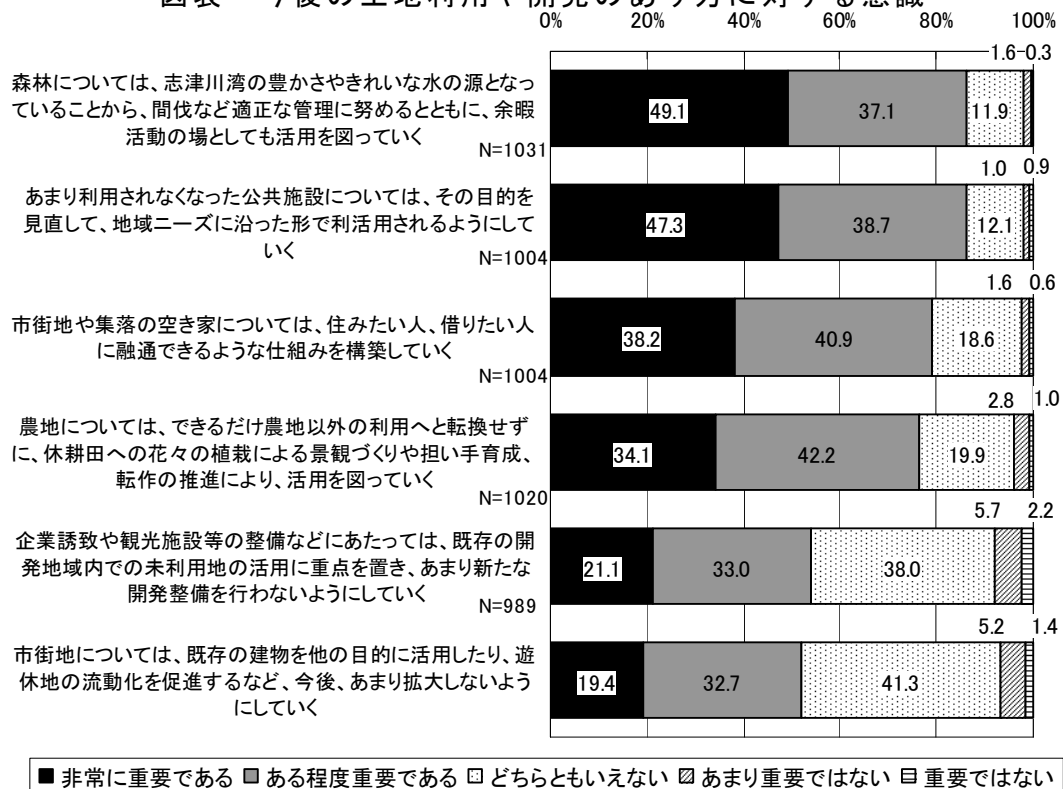


### 3. 今後の土地利用や開発のあり方について

「今後の土地利用や開発」にかかる取組に関して、重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「森林については、志津川湾の豊かさやきれいな水の源となっていることから、間伐など適正な管理に努めるとともに、余暇活動の場としても活用を図っていく」（86.2%）が最も重要視されており、次いで「あまり利用されなくなった公共施設については、その目的を見直して、地域ニーズに沿った形で利活用されるようにしていく」（86.0%）などとなっています。

新たな開発等はあまり行わずに南三陸町の有する自然環境の保全・活用に努めるとともに、各種社会資本ストックの有効活用を図っていくべきであるという意識が反映されています。

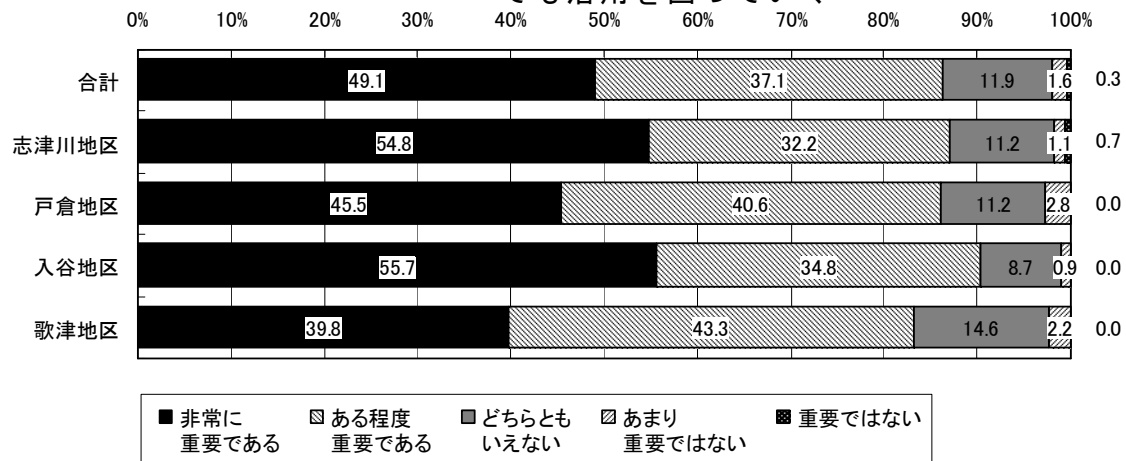
図表 今後の土地利用や開発のあり方に対する意識



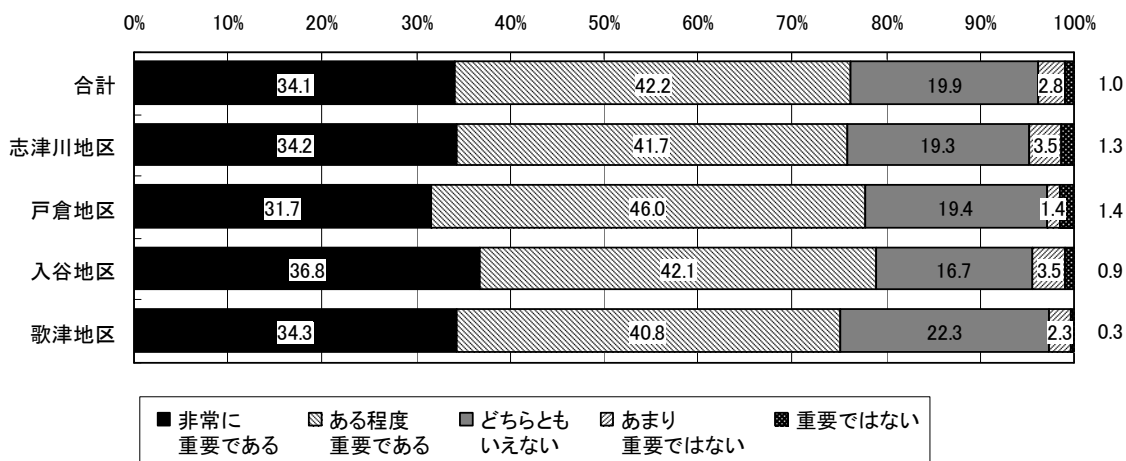
項 目	有効回答数	非常に重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
森林については、志津川湾の豊かさやきれいな水の源となっていることから、間伐など適正な管理に努めるとともに、余暇活動の場としても活用を図っていく	1031	506	382	123	17	3
	100.0%	49.1%	37.1%	11.9%	1.6%	0.3%
農地については、できるだけ農地以外の利用へと転換せず、休耕田への花々の植栽による景観づくりや担い手育成、転作の推進により、活用を図っていく	1020	348	430	203	29	10
	100.0%	34.1%	42.2%	19.9%	2.8%	1.0%
市街地については、既存の建物を他の目的に活用したり、遊休地の流動化を促進するなど、今後、あまり拡大しないようにしていく	985	191	322	407	51	14
	100.0%	19.4%	32.7%	41.3%	5.2%	1.4%
市街地や集落の空き家については、住みたい人、借りたい人に融通できるような仕組みを構築していく	1004	384	411	187	16	6
	100.0%	38.2%	40.9%	18.6%	1.6%	0.6%
企業誘致や観光施設等の整備などにあたっては、既存の開発地域内での未利用地の活用に重点を置き、あまり新たな開発整備を行わないようにしていく	989	209	326	376	56	22
	100.0%	21.1%	33.0%	38.0%	5.7%	2.2%
あまり利用されなくなった公共施設については、その目的を見直して、地域ニーズに沿った形で利活用されるようにしていく	1004	475	389	121	10	9
	100.0%	47.3%	38.7%	12.1%	1.0%	0.9%

なお、「今後の土地利用や開発」にかかる取組（回答選択肢）ごとの地区別の回答状況は次のとおりです。

図表 今後の土地利用や開発のあり方①：森林については、志津川湾の豊かさやきれいな水の源となっていることから、間伐など適正な管理に努めるとともに、余暇活動の場としても活用を図っていく

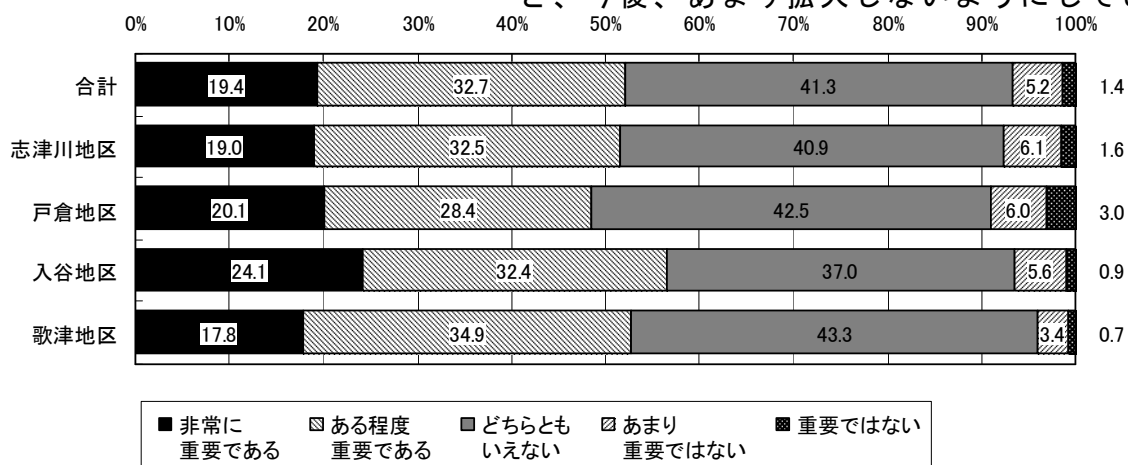


図表 今後の土地利用や開発のあり方②：農地については、できるだけ農地以外の利用へと転換せず、休耕田への花々の植栽による景観づくりや担い手育成、転作の推進により、活用を図っていく

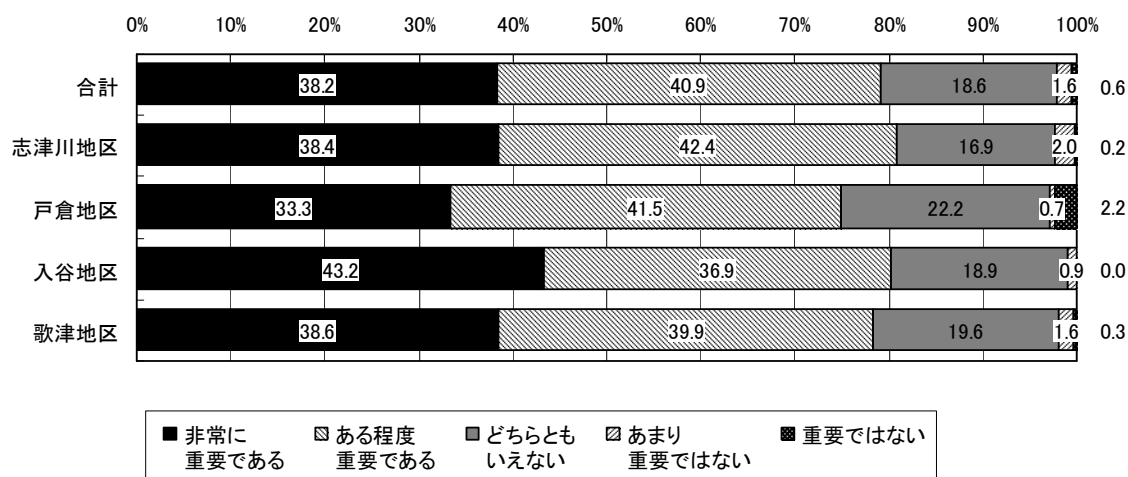




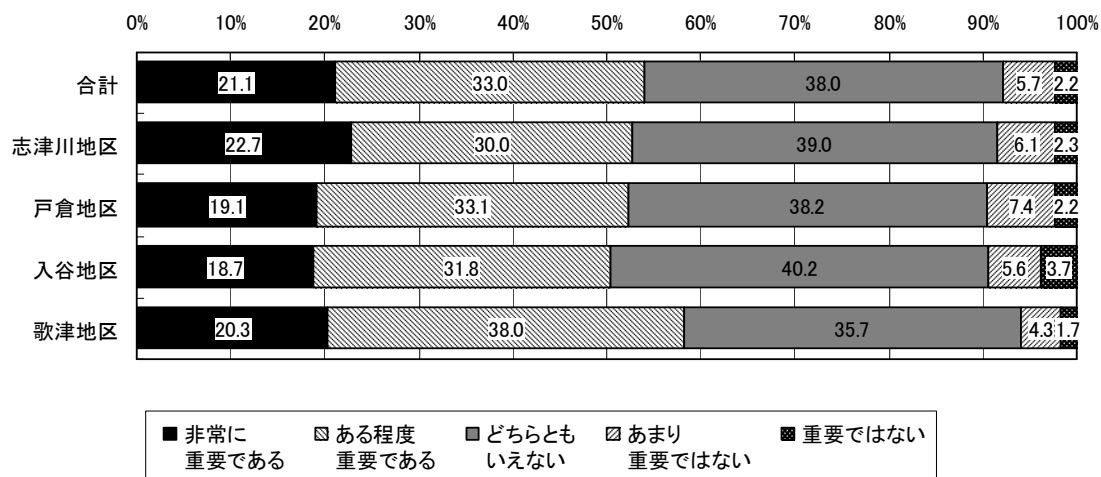
図表 今後の土地利用や開発のあり方③：市街地については、既存の建物を他の目的に活用したり、遊休地の流動化を促進するなど、今後、あまり拡大しないようにしていく



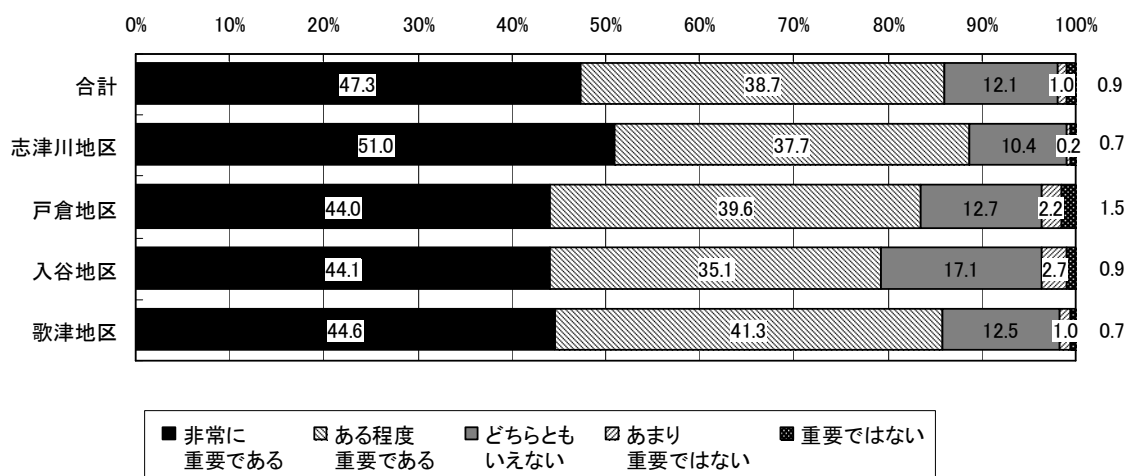
図表 今後の土地利用や開発のあり方④：市街地や集落の空き屋については、住みたい人、借りたい人に融通できるような仕組みを構築していく



図表 今後の土地利用や開発のあり方⑤：企業誘致や観光施設等の整備などにあたっては、既存の開発地域内での未利用地の活用に重点を置き、あまり新たな開発整備を行わないようにしていく



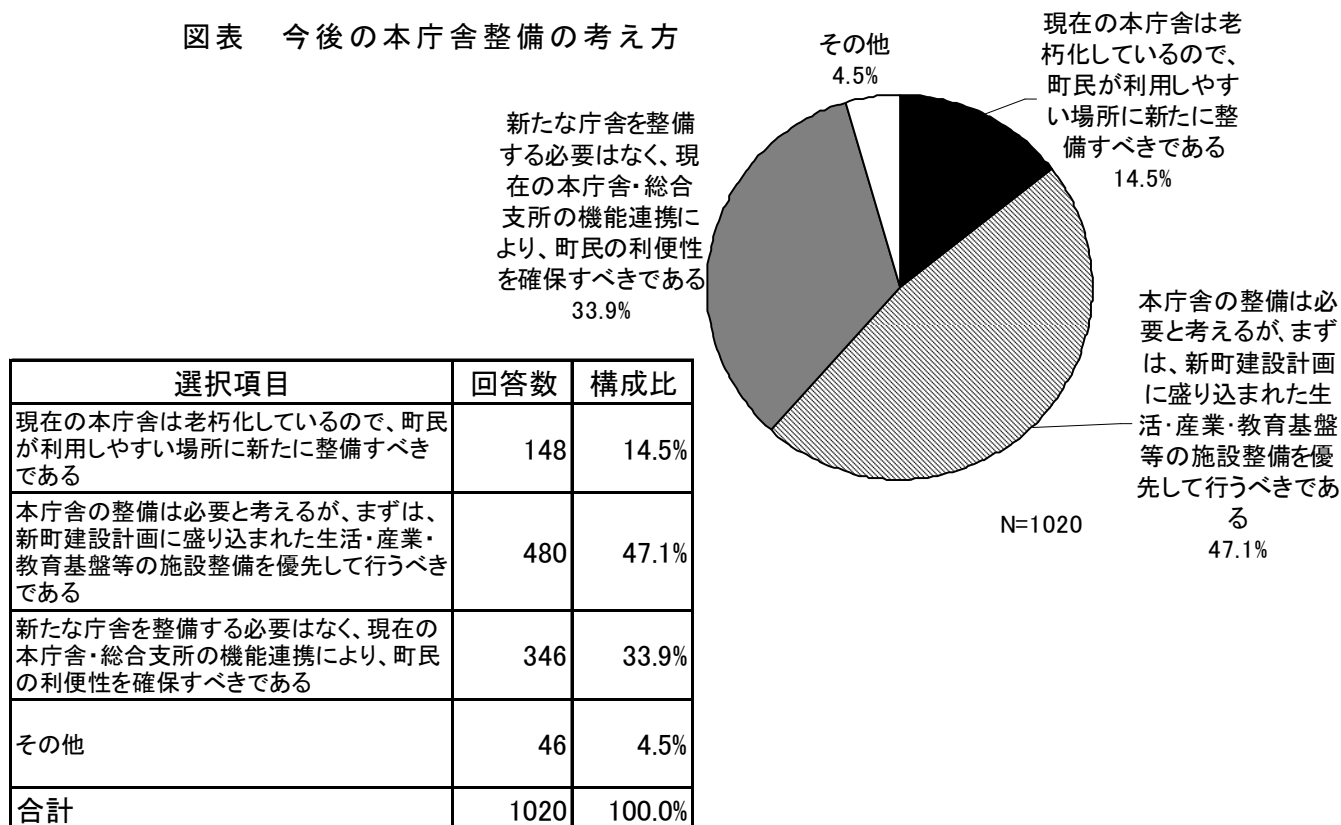
図表 今後の土地利用や開発のあり方⑥：あまり利用されなくなった公共施設については、その目的を見直して、地域ニーズに沿った形で利活用されるようにしていく



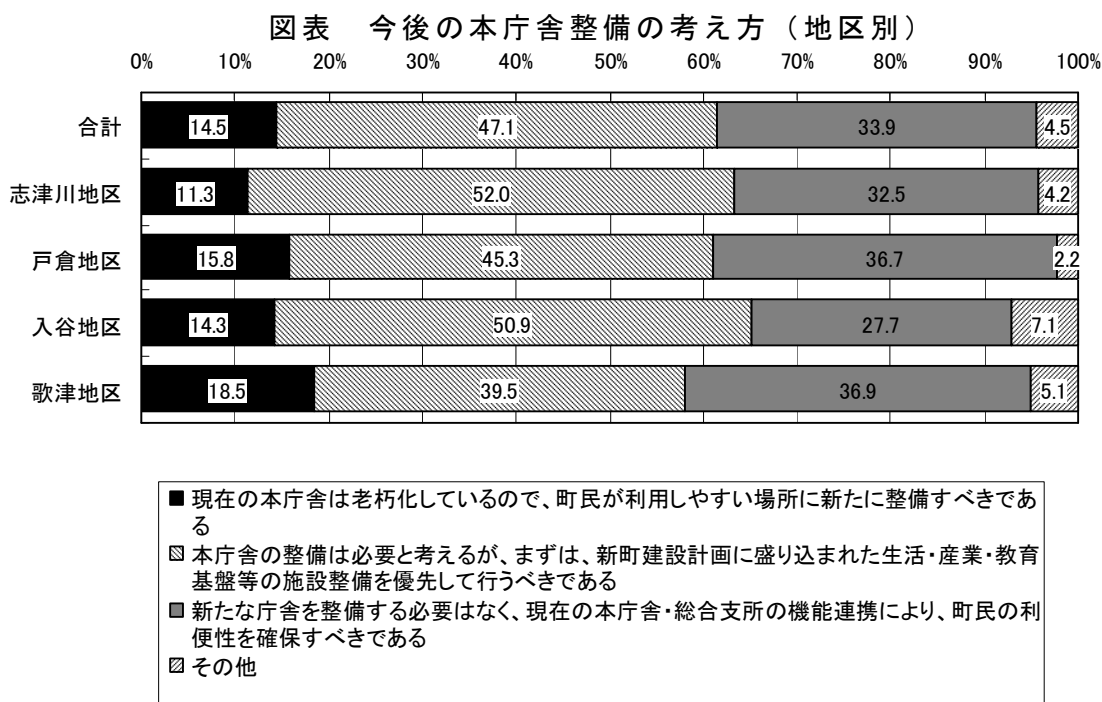
#### 4. 南三陸町の今後の本庁舎整備の考え方について

南三陸町の今後の本庁舎整備の考え方に関する意向をみると、「本庁舎の整備は必要と考えるが、まずは、新町建設計画に盛り込まれた生活・産業・教育基盤等の施設整備を優先して行うべきである」（47.1%）という意見が最も多く、次いで「新たな庁舎を整備する必要はなく、現在の本庁舎・総合支所の機能連携により、町民の利便性を確保すればよい」（33.9%）となっています。一方、「現在の本庁舎は老朽化しているので、町民が利用しやすい場所に新たに整備すべきである」という意見は全体の 14.5%にとどまっています。

図表 今後の本庁舎整備の考え方



地区別の回答状況をみても、最高は歌津地区の 18.5%であり、20%に満たない結果となっています。



なお、選択項目の「その他」として、次の意見が寄せられました。

意 見	性別	年 齢	居住地域
国県の出先機関を譲り受ける。合同庁舎、ハローワーク跡などが良いと思う。	男	18～29 歳	志津川地区
耐震の問題等があるので、早い時期に県合庁に移動することを検討すべきである。	男	30～39 歳	志津川地区
県合同庁舎。	男	40～49 歳	志津川地区
老朽化が著しいので、他の公共施設等の転用、国県施設の払い下げ等は一。	男	40～49 歳	志津川地区
合庁を利用できないものか。	男	50～59 歳	志津川地区
合同庁舎の使用。	男	50～59 歳	志津川地区
噂によると県合庁が空くとのこと。その建物をそのまま使えば良いと思います。	男	60～69 歳	志津川地区
合同庁舎が廃止されるという噂を聞きました。そこを使用することができないのですか。	女	30～39 歳	志津川地区
県合同庁舎が迫に移転後、利用すればいいと思う。	女	30～39 歳	志津川地区
志津川合庁を払い下げしてもらおう。駅にも近くて、車を運転しない人も行きやすい。	女	50～59 歳	志津川地区
宮城県志津川合同庁舎の後を利用できたらいいと思う。	女	50～59 歳	志津川地区
県の合同庁舎が気仙沼に移転して空いていると聞いています。この施設をうまく活用すべきだと思います。新しい庁舎の建設は必要ないと思います。	女	50～59 歳	志津川地区

回 答	性別	年齢	居住地域
県合同庁舎移転後、その跡地。	女	60～69 歳	志津川地区
県税事務所の後を、払い下げしてもらったらどうですか。そして国道 45 号バイパスをトンネルでつないではどうでしょうか。	男	60～69 歳	戸倉地区
志津川合庁を使う。	女	70 歳以上	入谷地区
合同庁舎に移転する。	男	18～29 歳	歌津地区
宮城県の施設、県の合同庁舎(志津川)を譲り受けて、南三陸町役場として活用する。	男	60～69 歳	歌津地区
現在の本庁舎は老朽化している。県知事がお話ししたことである。県合同庁舎で良いと思う。	男	60～69 歳	歌津地区
合同庁舎など、空になった所を利用する。	女	50～59 歳	歌津地区
今、使用していない合庁を利用したほうが良い。	女	50～59 歳	歌津地区
空き公共施設を利用する。	男	60～69 歳	志津川地区
老朽化よりも、本庁舎としてあまり好ましくない暗い雰囲気がある。また、津波の被害が高い確率で予想されるような場所にあるというのは、どう考えてもふさわしくない。したがって、新たに整備すべきとは思いますが、身の丈にあったものにすべき。	女	30～39 歳	志津川地区
モッタイナイはいまや国際語。金がなければ、ないなりの生活は当たり前。身の丈にあう町の計画はトップダウンで。	女	60～69 歳	志津川地区
新たな庁舎を是非にと見栄を張りたいとみる。しかし、しばし待てが答えである。	男	50～59 歳	戸倉地区
特例債等を活用して有効的、効率的に建築するもの良いと思う。しかし、住民すべてが利用しやすい場所はありませんと思う。今後の自治体合併も考えられる状況下では、無理をして整備することもないと思う。	男	18～29 歳	入谷地区
本庁舎の整備も必要であるが、それ以前に、中で働く職員を教育すべきである。	男	40～49 歳	入谷地区
適当なところに安く借りる。	男	40～49 歳	入谷地区
新たな庁舎を整備する必要はなく、今後、利用されなくなる庁舎的建物、そして庁舎に必要とされる物件を利用すべきで、それが他のすべてに優先する。	男	60～69 歳	入谷地区
財政的に無理なら、建設はしないほうがいいし、有効に活用できる建物があれば、そこを役場として使えばよい。	女	18～29 歳	入谷地区
‘借金も財産のうち’、‘貧乏人は麦を食え’ 確かに麦は健康につながる。けれど借金は人を殺す。財布の中身を確認して行動することも今の南三陸町には必要ではありませんか。かわいいのは自分だけではないと思います。	女	50～59 歳	入谷地区

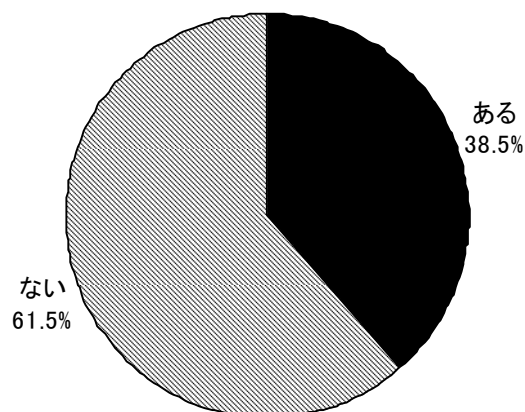
回 答	性別	年齢	居住地域
志津川、歌津が合併して新しいまちづくりを目指すのだから、本庁舎が新しい場所(南三陸町の中心)にないのなら、あまり今後の発展は望めないと思う。未来は新しい開発と挑戦から。	男	30～39 歳	歌津地区
職員のことにお金を使うより、町民のために使ってほしい。少し古くても、これまで使っていたところなので、だいじょうぶ。	女	30～39 歳	歌津地区
町民が利用しやすいというよりも、地震、津波等の災害があった場合、きちんと機能できる場所に建築すべきだと思う。本庁舎は危険な場所にあるし、老朽化している。災害本部として、安全第一に（防災センターも心配）。	女	40～49 歳	歌津地区
本庁舎、総合支所の整備はどうでもよい。職員の対応の悪さから見直したほうがよい。	女	50～59 歳	歌津地区
津波などの被害があると思われるので、少し高台の方へ新築されたほうがよいです。商工団地辺りが望ましいです。	女	50～59 歳	歌津地区
合併したので、利用しやすい中間地点に。	女	60～69 歳	歌津地区

## 5. パソコンの所有状況について

回答者のパソコンの所有状況を見ると、「所有している」は38.5%にとどまり、「所有していない」と回答した人の割合が全体の約6割（61.5%）を占めています。

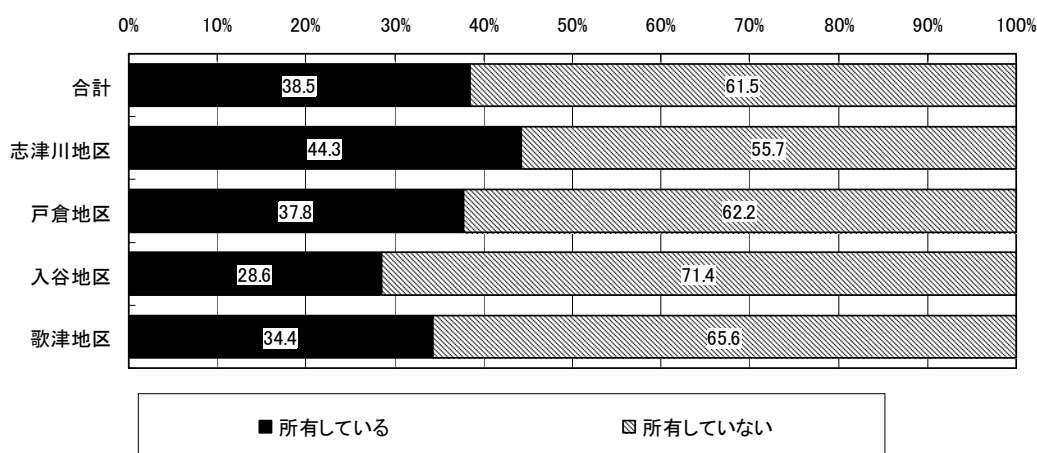
図表 パソコンの所有状況

選択項目	回答数	構成比
所有している	400	38.5%
所有していない	638	61.5%
合計	1038	100.0%



地区別の回答状況を見ると、志津川地区の方の所有率が高く（44.3%）、入谷地区の方の所有率が低い（28.6%）傾向にあります。 N=1038

図表 パソコンの所有状況（地区別）



また、年齢別でみると、18～40歳代の比較的若い世代のパソコン所有率が高く、50歳代以上の世代では所有率が低いという傾向がみられます。

区 分	有効回答数	所有している	所有していない
合計	1,038	400	638
	100.0%	38.5%	61.5%
18～29歳	174	90	84
	100.0%	51.7%	48.3%
30～39歳	195	100	95
	100.0%	51.3%	48.7%
40～49歳	206	108	98
	100.0%	52.4%	47.6%
50～59歳	225	69	156
	100.0%	30.7%	69.3%
60～69歳	179	27	152
	100.0%	15.1%	84.9%
70歳以上	53	5	48
	100.0%	9.4%	90.6%

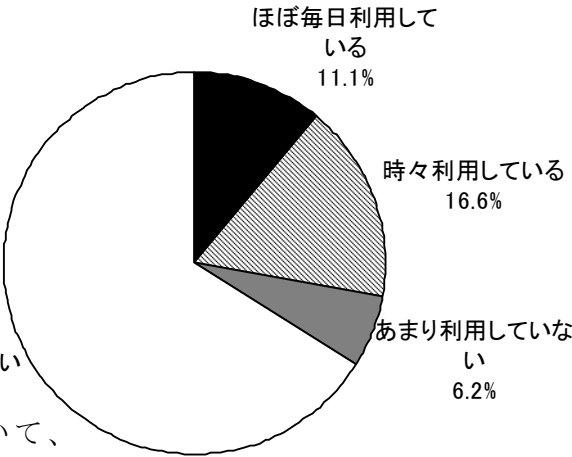
図表 パソコンの所有状況（年齢別）

# 6. インターネットの利用状況について

回答者のインターネットの利用状況をみると、「利用していない」が全体の約6割を超えており（66.1%）、これはパソコンの所有状況にほぼ比例した結果となっています。一方、インターネットを利用している人は、「時々利用している」（16.6%）、「ほぼ毎日利用している」（11.1%）を合わせても3割弱にとどまっています。

図表 インターネットの利用状況

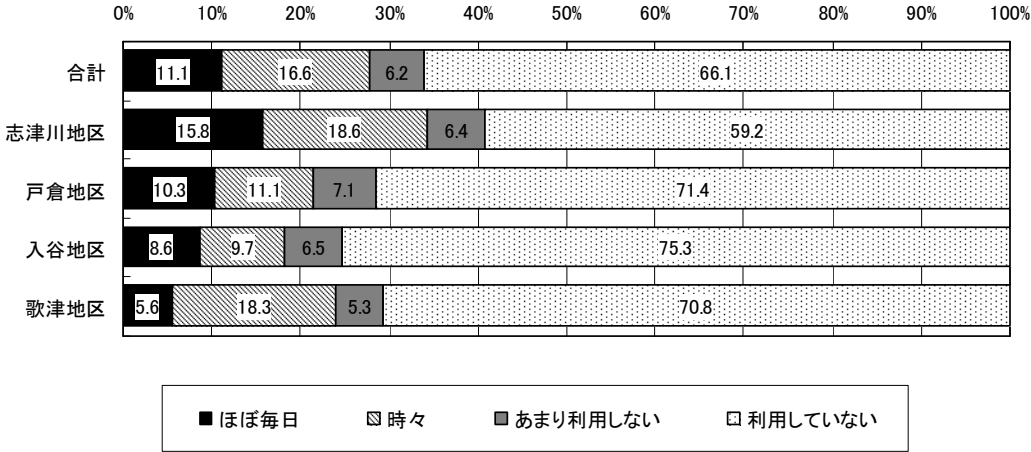
選択項目	回答数	構成比
ほぼ毎日利用している	103	11.1%
時々利用している	153	16.6%
あまり利用していない	57	6.2%
利用していない	611	66.1%
合計	924	100.0%



地区別の回答状況をみると、志津川地区において、「ほぼ毎日利用している」「時々利用している」といった回答割合が高い傾向にあります。

N=924

図表 インターネットの利用状況（地区別）



また、年齢別でみると、18～29歳代の若い世代でインターネットの利用率が高く、50歳代以上の年齢の高い世代では利用率が低いという傾向がみられます。

	有効回答数	ほぼ毎日利用している	時々利用している	あまり利用していない	利用していない
合計	924	103	153	57	611
	100.0%	11.1%	16.6%	6.2%	66.1%
18～29歳	164	33	40	12	79
	100.0%	20.1%	24.4%	7.3%	48.2%
30～39歳	178	23	38	18	99
	100.0%	12.9%	21.3%	10.1%	55.6%
40～49歳	197	24	38	12	123
	100.0%	12.2%	19.3%	6.1%	62.4%
50～59歳	192	14	30	12	136
	100.0%	7.3%	15.6%	6.3%	70.8%
60～69歳	142	6	5	1	130
	100.0%	4.2%	3.5%	0.7%	91.5%
70歳以上	46	2	2	2	40
	100.0%	4.3%	4.3%	4.3%	87.0%

図表 インターネットの利用状況（年齢別）

## 7. 将来の光ファイバ回線の利用について

「将来、町内で光ファイバ回線が利用可能になった場合の利用意向」について、「利用したい」が 32.5%、「利用しない」は 8.2%でしたが、「その時にならないとよくわからない」という回答が 59.4%と最も高い割合を占めています。

図表 将来の光ファイバ回線の利用意向

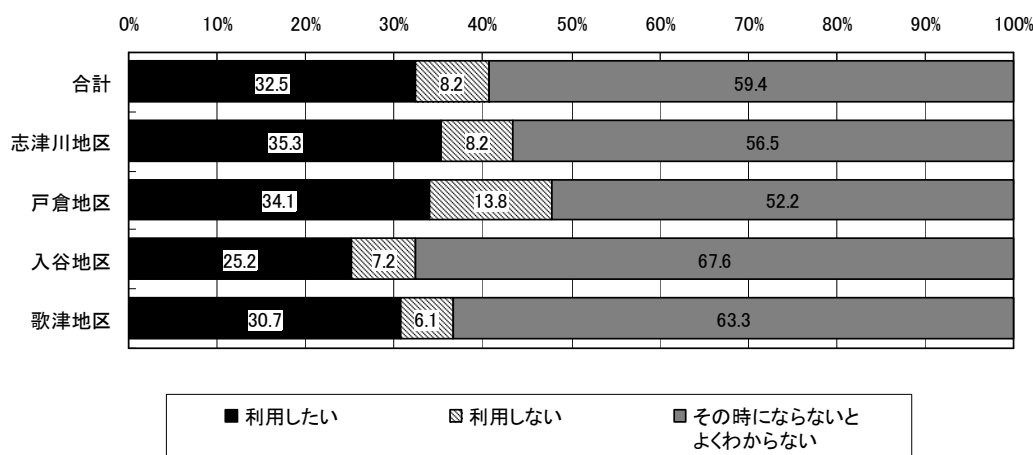
選択項目	回答数	構成比
利用したい	330	32.5%
利用しない	83	8.2%
その時にならないとよくわからない	603	59.4%
合計	1016	100.0%



N=1016

なお、地区別の回答状況をみると、志津川地区、戸倉地区において、利用意向が高い傾向にあります。

図表 将来の光ファイバ回線の利用意向（地区別）



## 8. 行政情報の入手方法について

今後、行政情報を入手するために利用したい媒体としては、「広報誌」（68.8%）という回答が最も多く、次いで「防災無線」（41.1%）、「新聞」（25.6%）などとなっています。電子情報化が飛躍的に進んできている現在においても、紙面や防災無線などといった情報入手手段に対するニーズが高いことが伺えます。

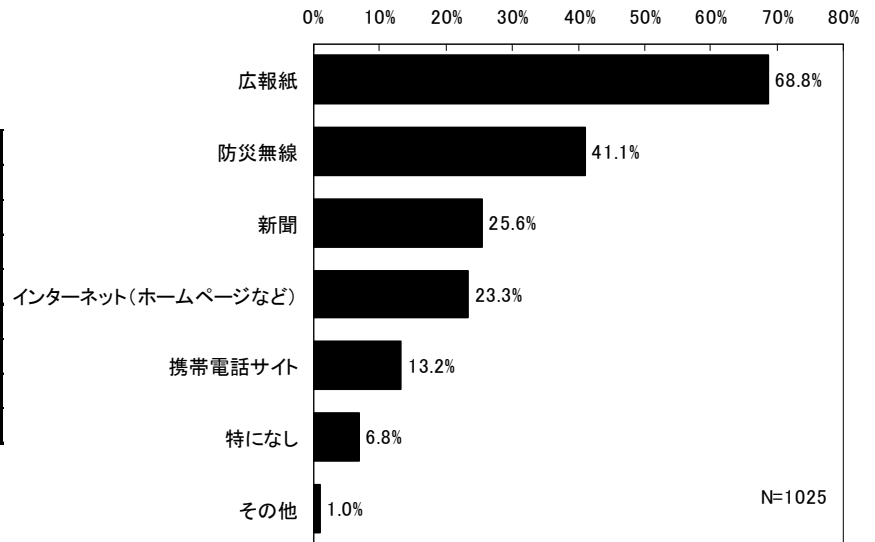
なお、「その他」の回答として、主に以下の意見が寄せられました。

- 口コミ
- 知人からの情報
- テレビ
- 議会の傍聴
- 自宅で入手できるパソコンではないC／P U端末の普及



図表 行政情報の入手方法

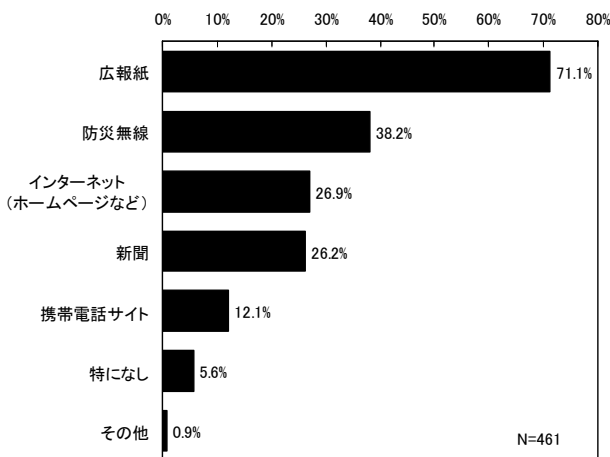
選択項目	回答数	構成比
広報紙	705	68.8%
新聞	262	25.6%
防災無線	421	41.1%
インターネット(ホームページなど)	239	23.3%
携帯電話サイト	135	13.2%
特になし	70	6.8%
その他	10	1.0%
有効回答数	1025	-



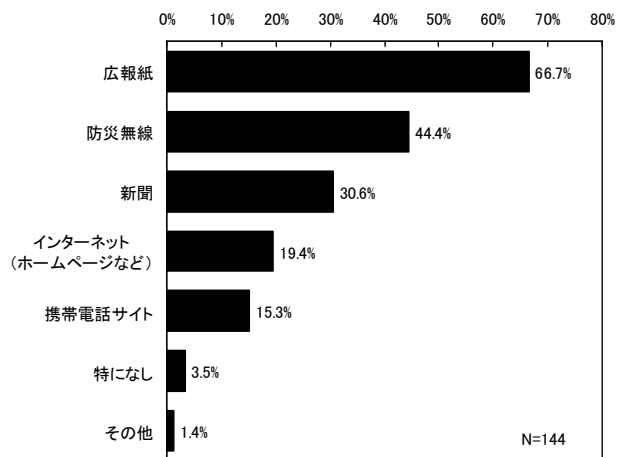
なお、地区別の回答状況は次のとおりです。

図表 行政情報の入手方法（地区別）

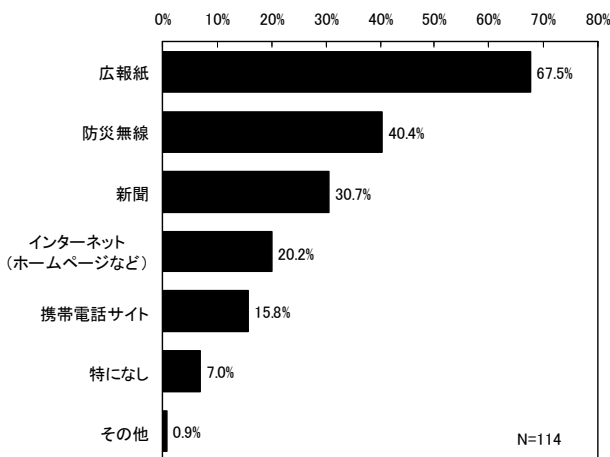
【志津川地区】



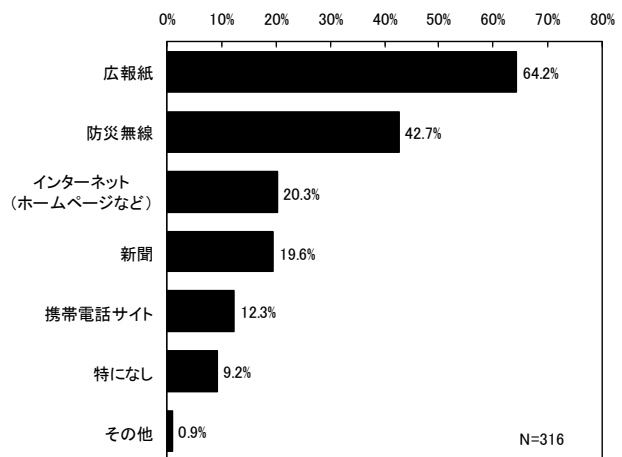
【戸倉地区】



【入谷地区】



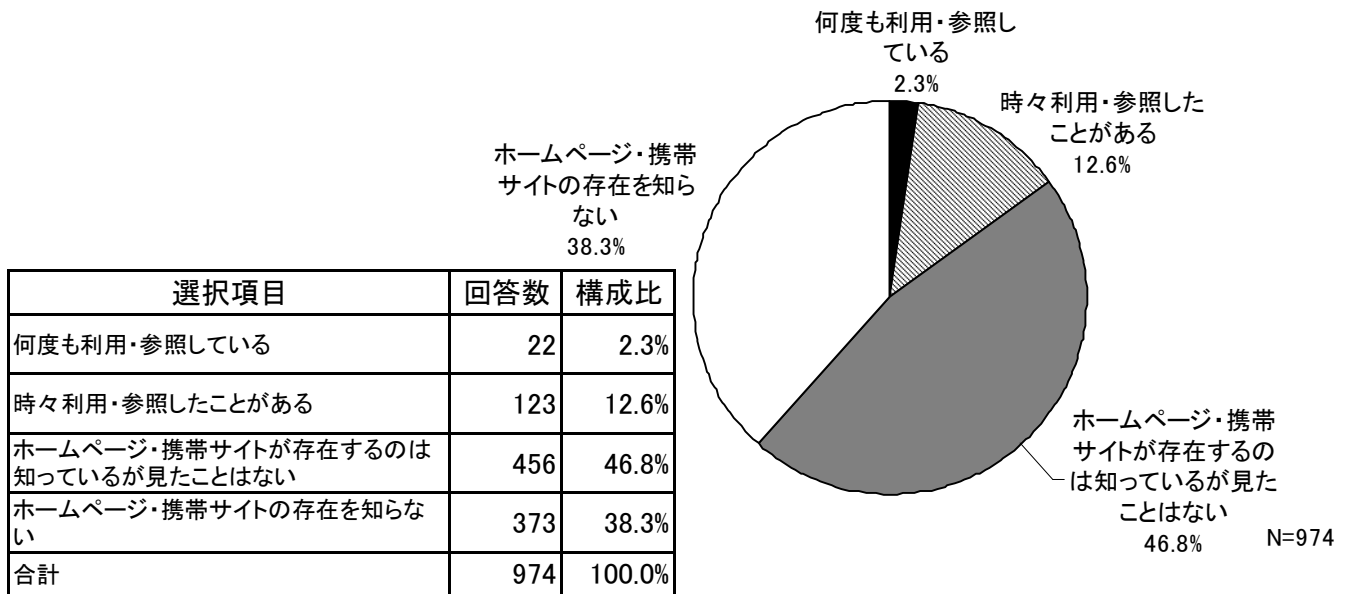
【歌津地区】



## 9. 南三陸町のホームページ・携帯サイトの利用について

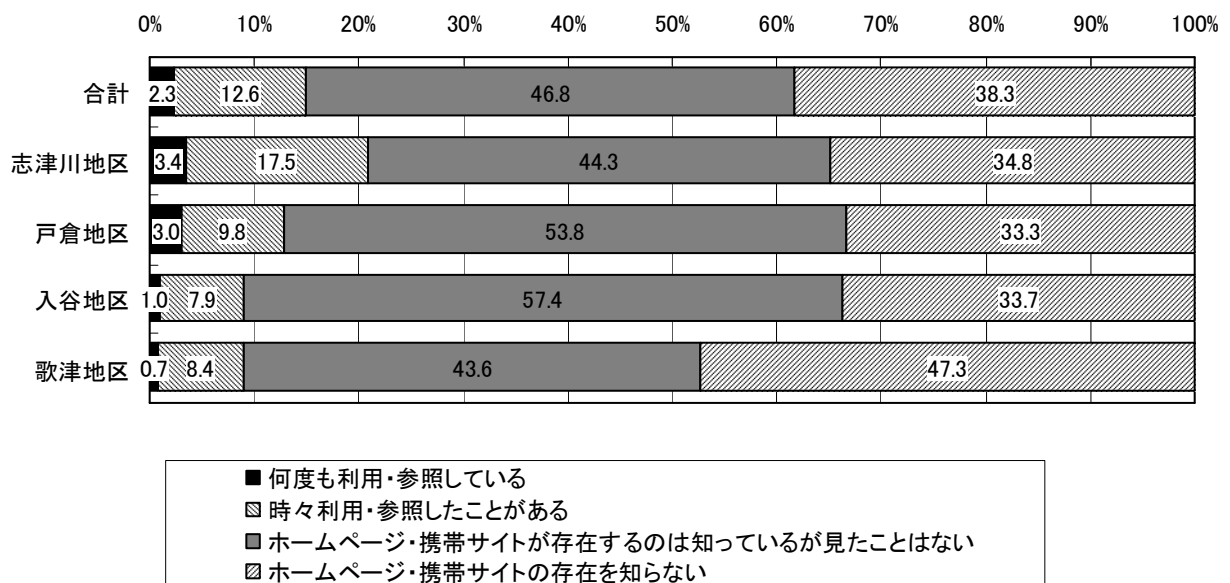
南三陸町のホームページや携帯サイトの利用・参照経験について聞いたところ、「ホームページ・携帯サイトが存在するのは知っているが見たことはない」(46.8%)、「ホームページ・携帯サイトの存在を知らない」(38.3%)という回答にみられるように、住民への普及割合は低い状況にあります。なお、これまでホームページや携帯サイトを利用・参照した経験のある人の割合は、「何度も利用・参照している」(2.3%)、「時々利用・参照したことがある」(12.6%)にとどまっています。

図表 南三陸町のホームページ・携帯サイトの利用状況



なお、参考までに、これらの結果について、地区別の回答状況をみると次のとおりですが、志津川地区におけるホームページや携帯サイトの利用割合が他の地区に比べ高い傾向にあります。

図表 南三陸町のホームページ・携帯サイトの利用状況（地区別）



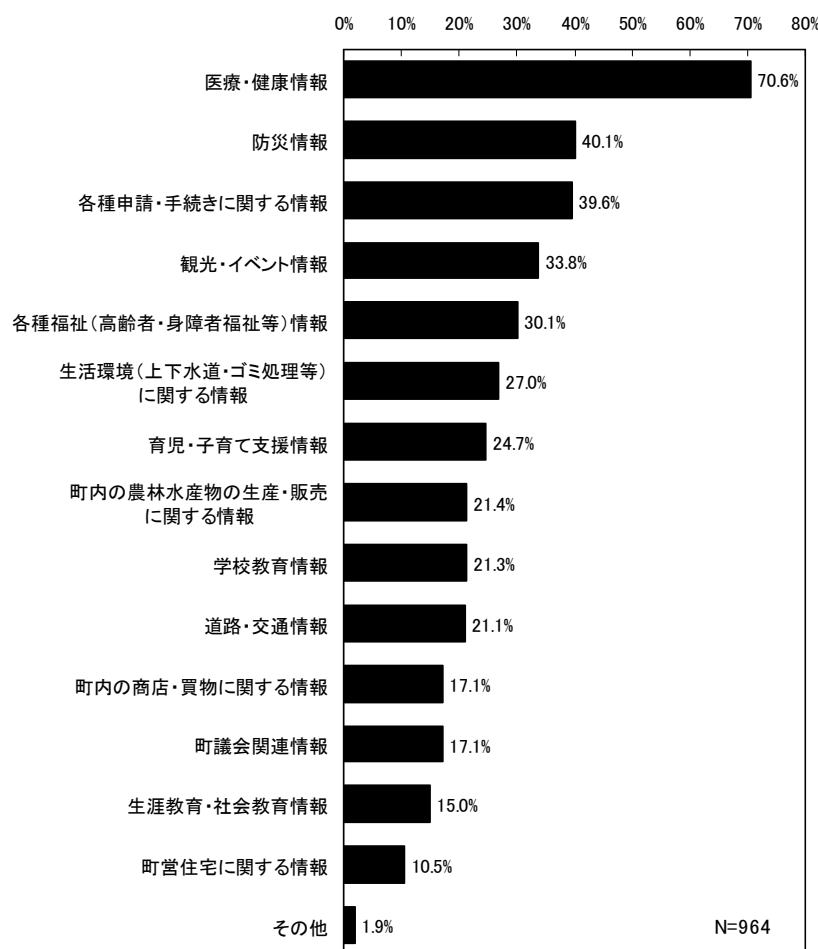
## 10. 南三陸町のホームページでの情報の充実などについて

南三陸町のホームページで充実してほしい情報としては、「医療・健康情報」(70.6%)に対する要望が最も多く、次いで「防災情報」(40.1%)、「各種申請・手続きに関する情報」(39.6%)、「観光・イベント情報」(33.8%)などとなっています。

なお、「その他」として、次のような意見が寄せられました。

- 求人・求職情報
- 町内のリアルな気象・海上情報
- 各産業者や生産物の紹介
- 公共施設に関する情報
- ボランティア情報
- 地震関係情報
- 三陸縦貫自動車道の工事進捗状況
- 町や町民の今日の出来事を毎日更新

図表 ホームページで充実してほしい情報

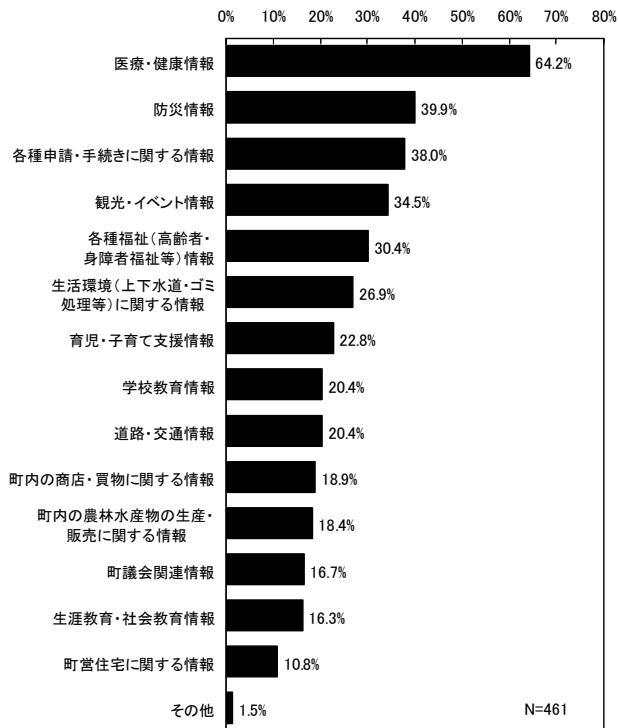


選択項目	回答数	構成比
医療・健康情報	681	70.6%
各種福祉(高齢者・身障者福祉等)情報	290	30.1%
育児・子育て支援情報	238	24.7%
学校教育情報	205	21.3%
生涯教育・社会教育情報	145	15.0%
観光・イベント情報	326	33.8%
町内の商店・買物に関する情報	165	17.1%
町内の農林水産物の生産・販売に関する情報	206	21.4%
道路・交通情報	203	21.1%
町営住宅に関する情報	101	10.5%
生活環境(上下水道・ゴミ処理等)に関する情報	260	27.0%
防災情報	387	40.1%
町議会関連情報	165	17.1%
各種申請・手続きに関する情報	382	39.6%
その他	18	1.9%
有効回答数	964	—

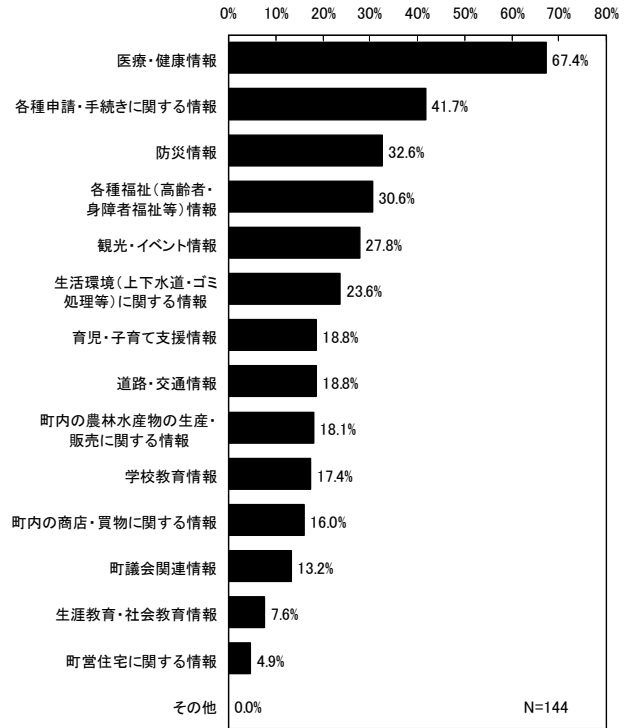
なお、地区別の回答状況は次のとおりです。

図表 ホームページで充実してほしい情報（地区別）

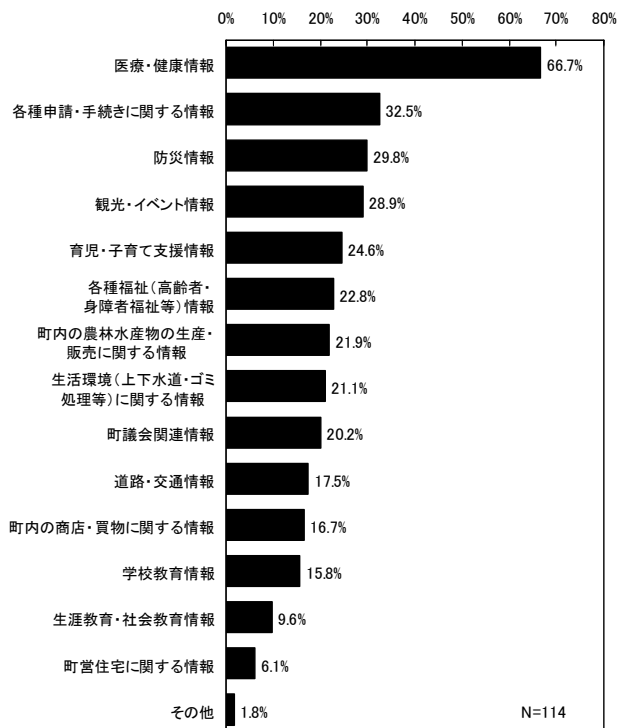
【志津川地区】



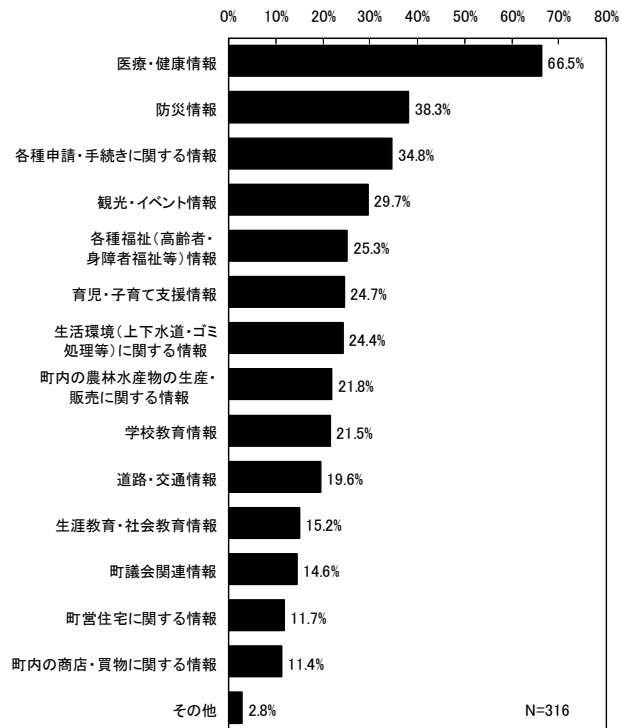
【戸倉地区】



【入谷地区】



【歌津地区】



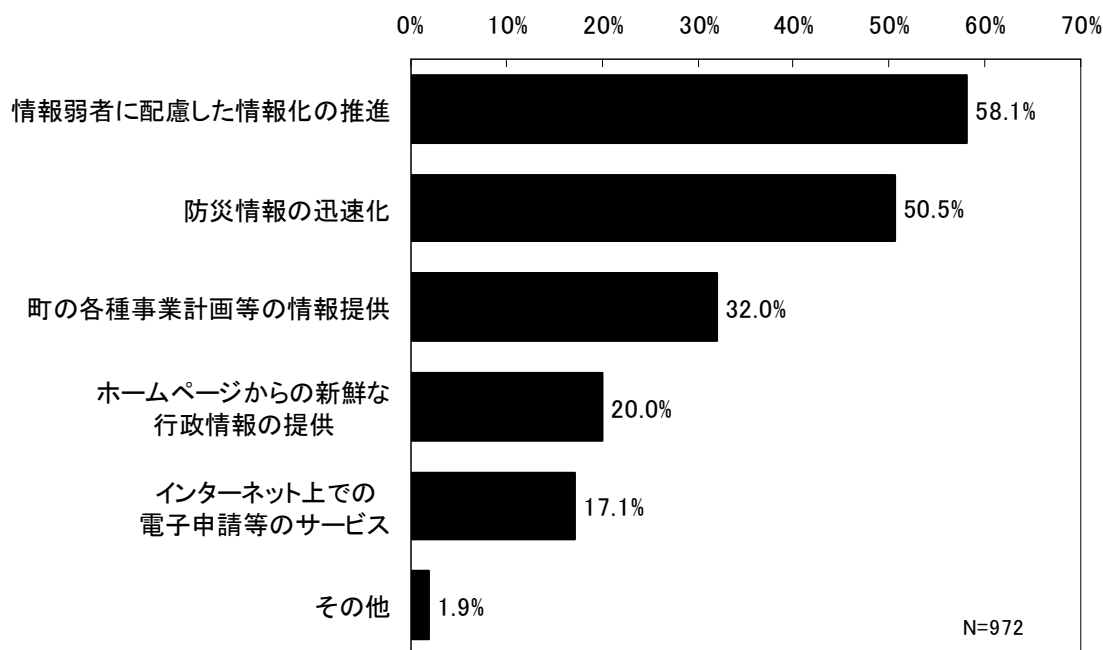
## 11. 地域情報化推進に際しての重点事項などについて

今後の地域情報化推進に際して重点的に考えるべき事項としては、「情報弱者に配慮した情報化の推進」(58.1%)、「防災情報の迅速化」(50.5%)という項目の回答割合が高くなっています。

なお、「その他」の回答として、次のような意見が寄せられました。

- 情報弱者のためのパソコン以外の情報伝達方法の工夫(広報、無線方法など)
- 個人情報や人権の保護
- 光ファイバ回線の導入や携帯アンテナ、無線LAN等の基盤整備

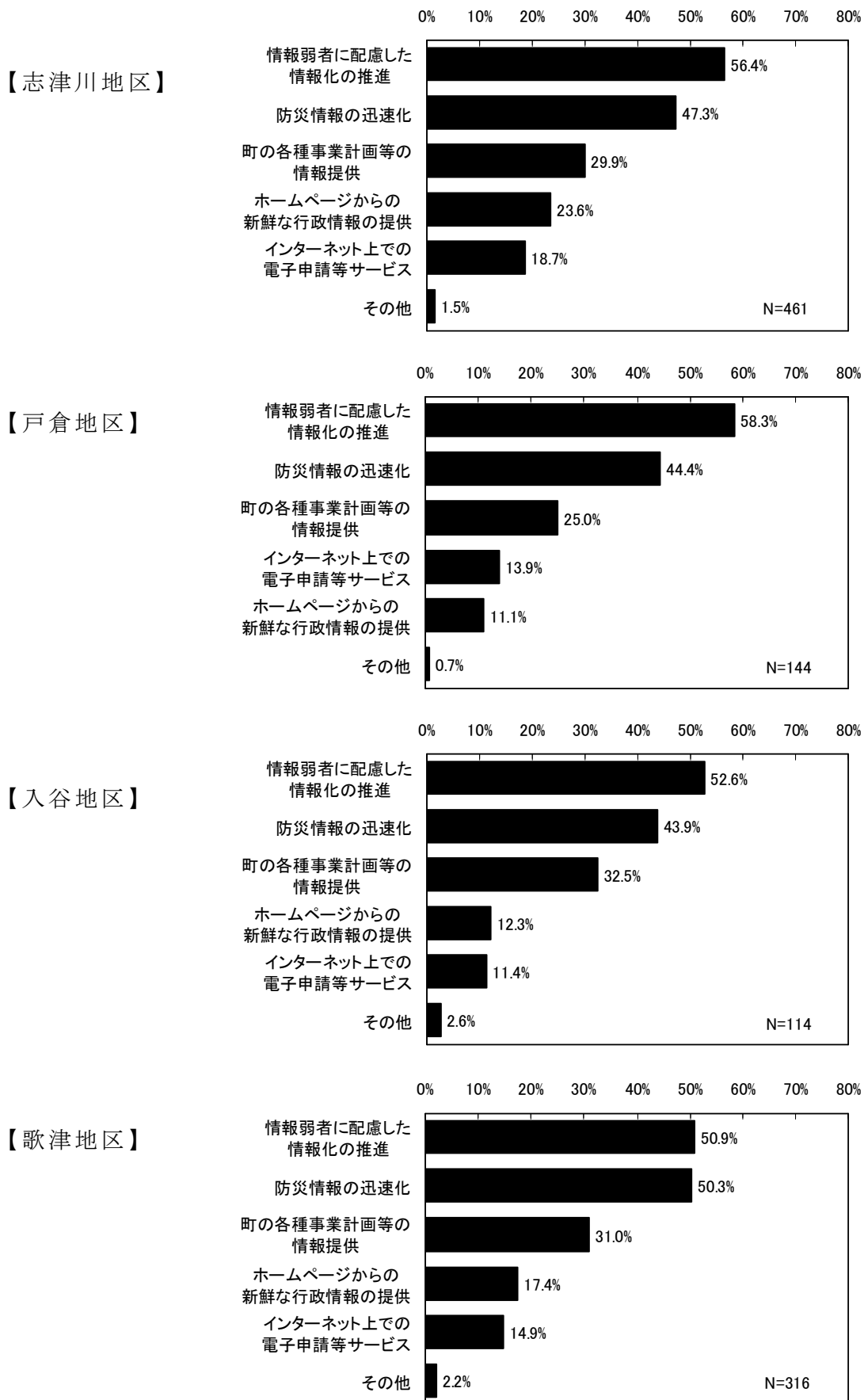
図表 地域情報化に際しての重点事項など



選択項目	回答数	構成比
ホームページからの新鮮な行政情報の提供	194	20.0%
情報弱者に配慮した情報化の推進	565	58.1%
町の各種事業計画等の情報提供	311	32.0%
防災情報の迅速化	491	50.5%
インターネット上での電子申請等のサービス	166	17.1%
その他	18	1.9%
有効回答数	972	—

なお、地区別の回答状況は次のとおりです。

図表 地域情報化推進に際しての重点事項など（地区別）



## 12. 南三陸町の今後のまちづくりに対する意見等について

寄せられたまちづくりに対する意見・要望等を分類・整理すると以下のようになっています。

### (1) 産業の振興

産業振興・就業環境の充実を求める声として、「町内での雇用の場の確保・企業誘致を」、「若い世代の就業機会の確保を」という意見・要望が多くありました。

また、農林水産業の振興については、「地元産物を活かした商品開発を」という意見・要望がありました。

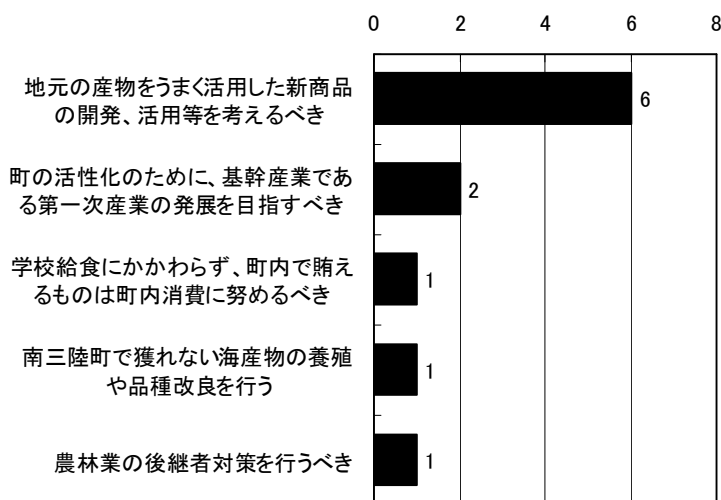
商業振興については、「中心商店街の活性化」と「大型ショッピングセンターの建設・誘致を」という声が多くあがっています。

観光振興については、産業振興の中心に据え、南三陸のブランドづくりや既存社会資本ストックの利活用による取り組みを望む声があがっています。

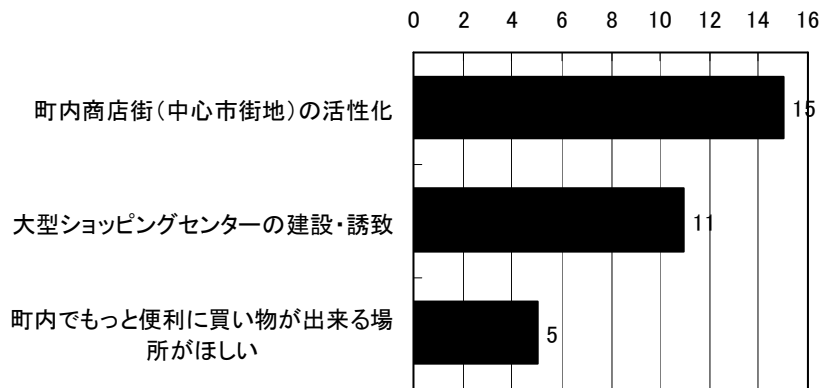
図表 産業振興・就業環境の充実



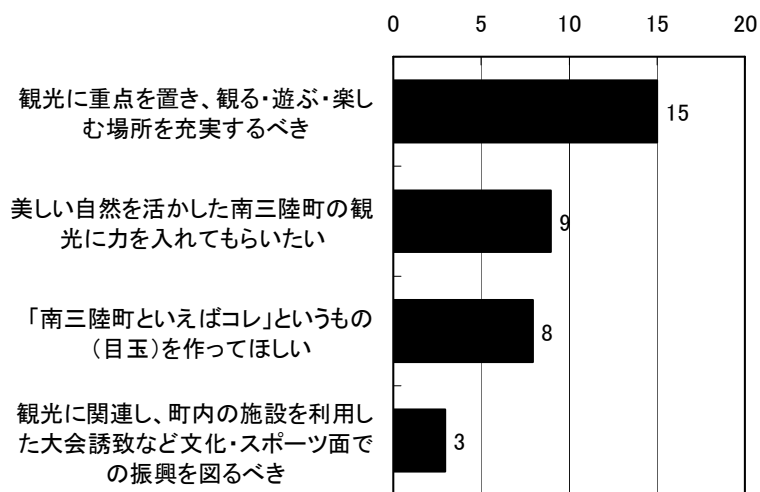
図表 農林水産業の振興



図表 商業の振興



図表 観光の振興



## (2) 都市基盤の整備・充実

交通基盤の整備では、高齢者や子どもなど「交通弱者の移動手段の確保」に対する要望が多く、また、「三陸縦貫自動車道の早期建設」に対する声も多くあがっています。

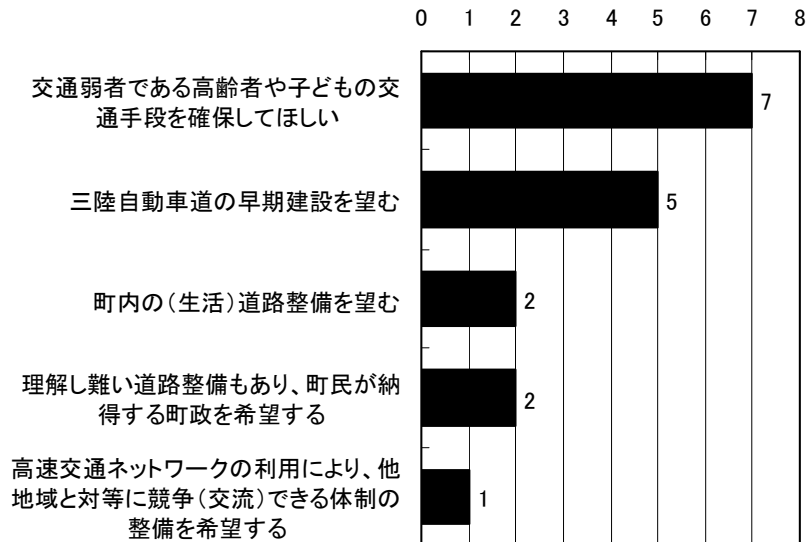
居住環境面では、若者層の人口定着を目指した「住宅(団地)の整備」に対する要望が多くあがっています。

その他の施設関係では、特に「スポーツ・文化・娯楽関連施設の整備」に対する要望が多くあがっています。

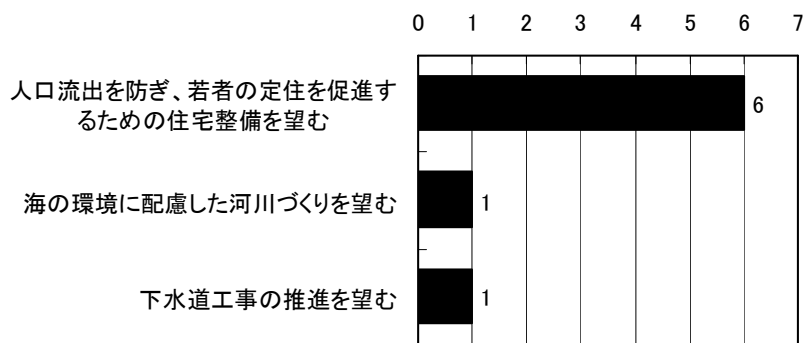
また、情報伝達の手段や環境整備に関しては、「(誰にでも)使いやすい情報環境としての媒体とコンテンツの整備・充実」に対する要望が多くあがっています。



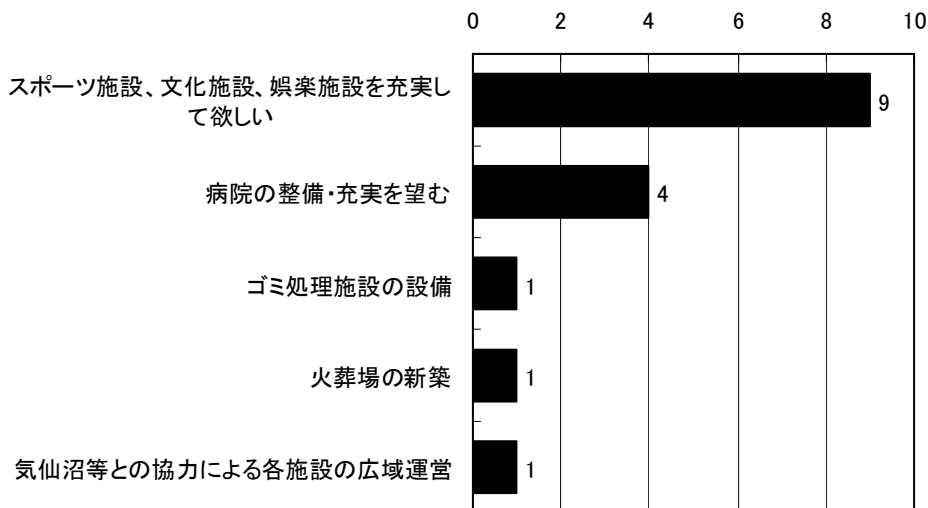
図表 交通基盤整備・充実



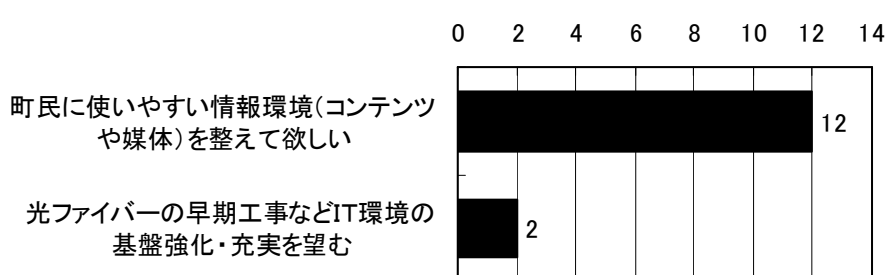
図表 居住環境



図表 各種施設の整備・充実



図表 情報伝達手段・環境



### (3) 保健・医療・福祉・教育

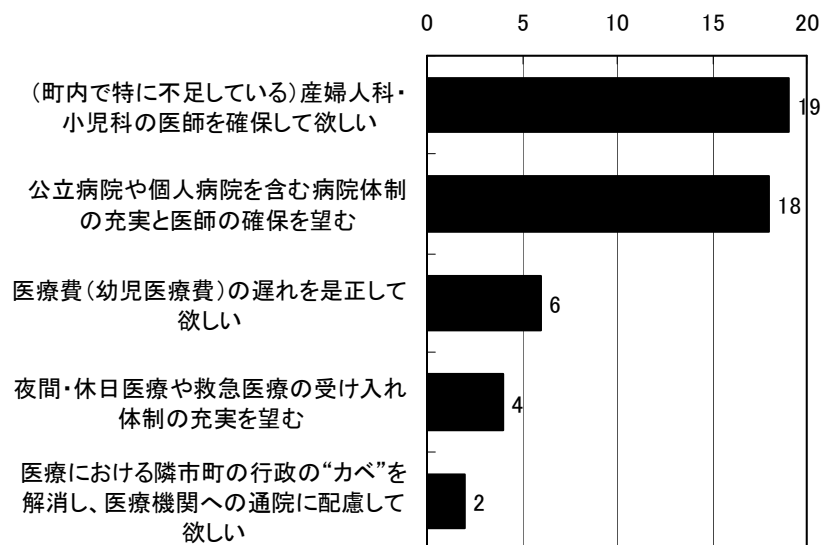
医療全般に関して、「産婦人科・小児科の医師の確保」に対する要望が多くあがっています。

中でも公立志津川病院については、「医師不在への対応」、特に「産婦人科・小児科の体制強化」を望む声が多くあがっています。

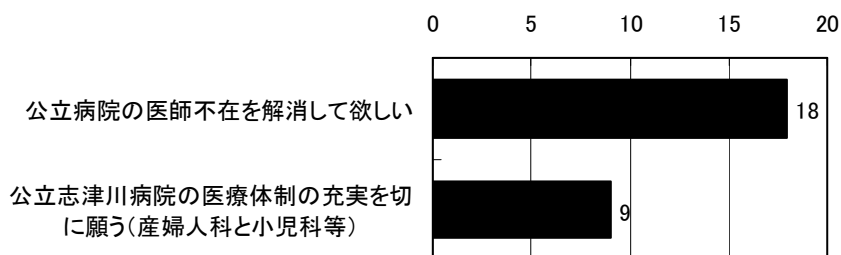
保健・福祉の関係では、「安心して出産や子育てができる環境の充実」に対する要望が多くあがっています。

教育の面では、多様な意見がありますが、「生涯教育を通じた人材育成」や「子どもたちの心身の健全な育成」に対する要望があがっています。

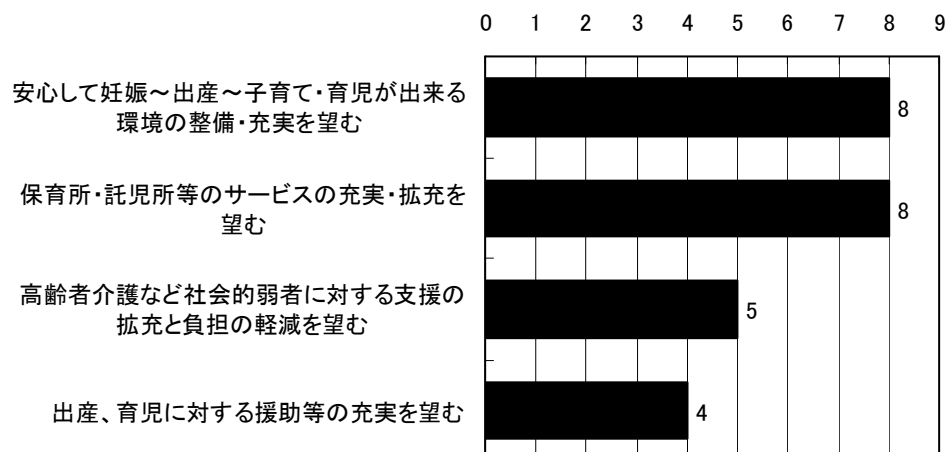
図表 医療体制の充実(医療全般)



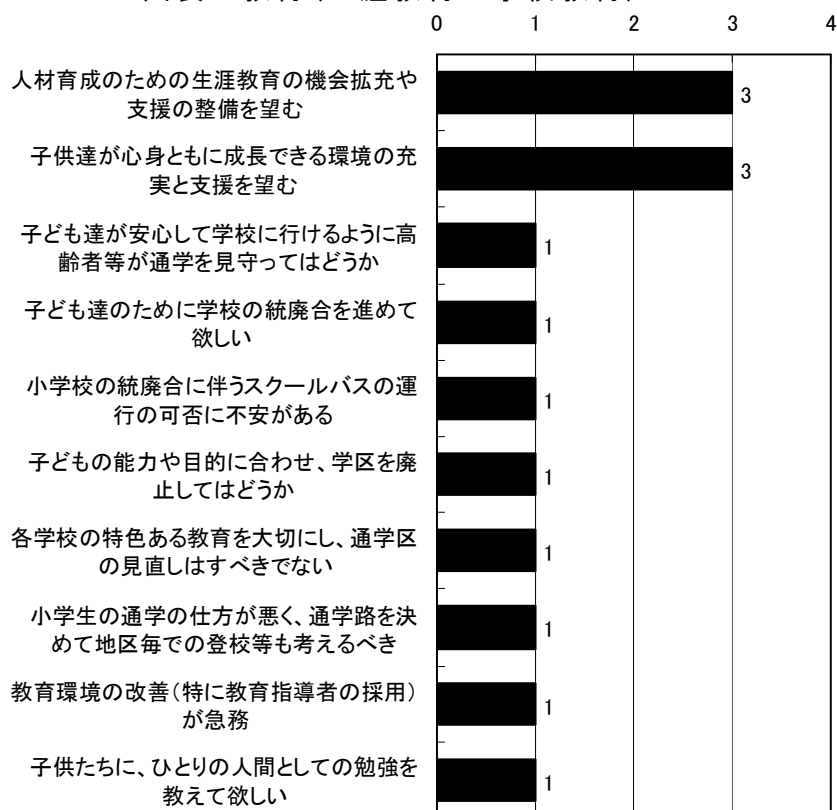
図表 公立志津川病院の充実・改善



図表 保健・福祉サービスの充実



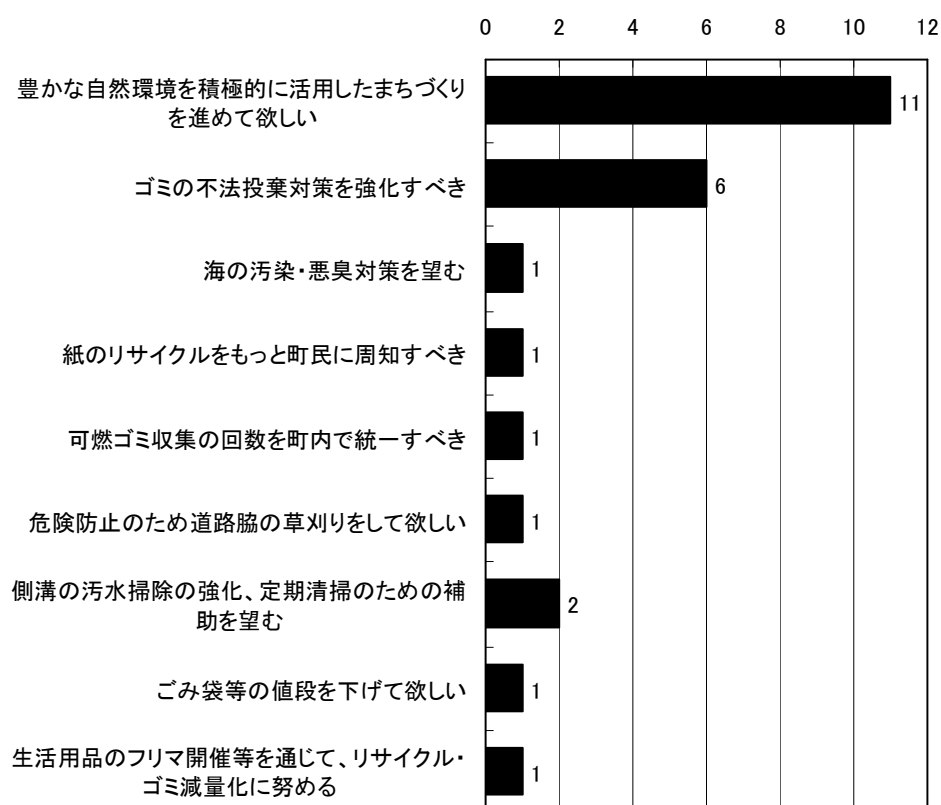
図表 教育（生涯教育・学校教育）について



#### （４）環境保全など

環境保全について、南三陸町が有する「豊かな自然環境のまちづくりへの積極活用」を要望する声が多くあがっています。

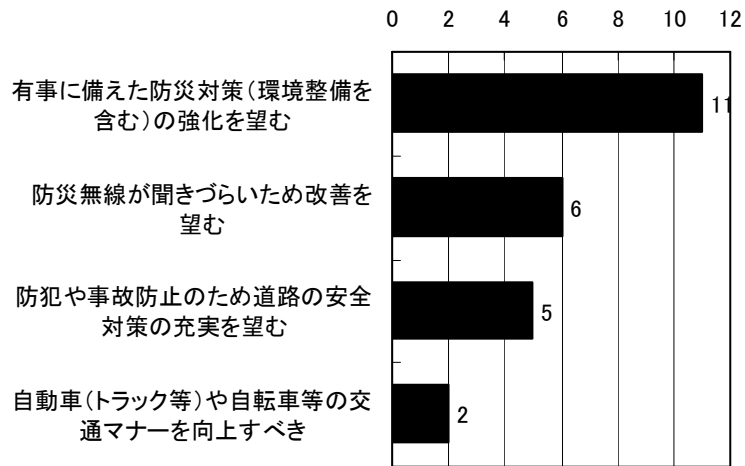
図表 環境保全対策など



## （５）防犯・防災対策など

防犯・防災対策について、「有事に備えた防災対策の強化」を要望する声が多くあがっています。その他には、「防災無線の改善」や「防犯や事故防止のための道路の安全対策」を求める声があがっています。

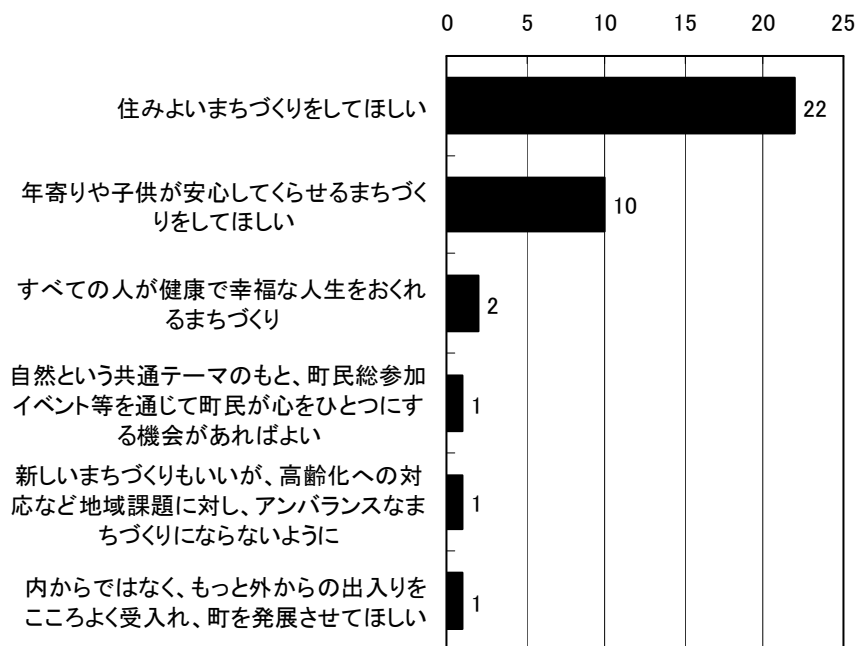
図表 防犯・防災対策など



## （６）まちづくり全般

まちづくり全般に対する意見として、「住みよいまちづくり」を望む声が多く、次いで「年寄りや子供が安心して暮らせるまちづくり」を望む声も多く寄せられました。

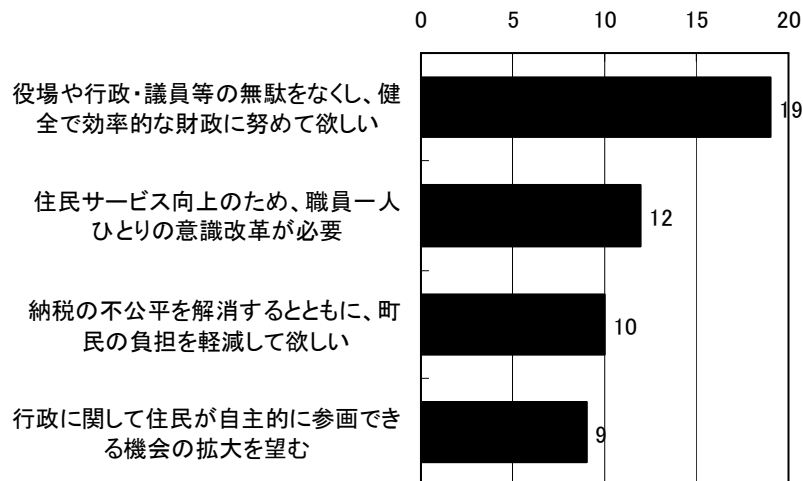
図表 まちづくりに対する要望



## （７）町政や行政サービスについて

町政や行政サービスに対する意見として、「行政の無駄を無くした健全で効率的な財政」を望む声が多く、次いで「行政職員の意識改革」や「納税の不公平感解消」、あるいは、「町民の自主的な行政参画機会の拡大」を望む声も多く寄せられました。

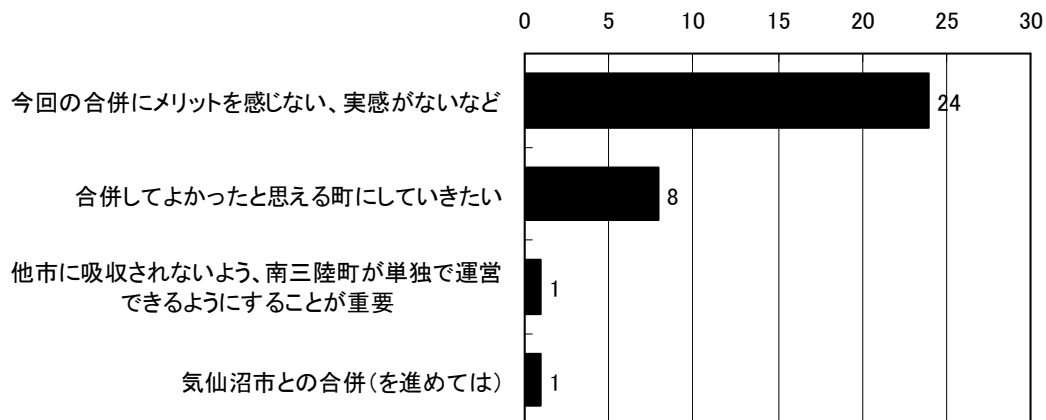
図表 町政、行政サービスについて



## （８）合併に対する意見など

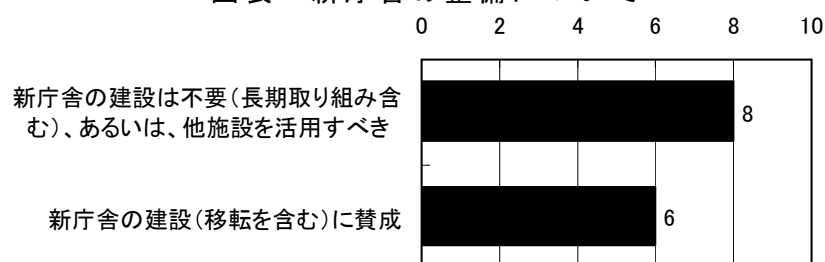
合併に関する意見として、「今回の合併にメリットを感じない」という意見がある一方、今回の合併を前向きにとらえ、「合併してよかったと思える町にしていきたい」という意見も寄せられています。

図表 合併に対する意見など



## （９）新庁舎の整備について

図表 新庁舎の整備について



#### IV. 資 料 編

